別添

別添1：本事業検証の目的とDAC評価5項目の連関（「事業検証実施計画書」より抜粋して若干の改編を加えた）

	事業検証目的1	事業検証目的2	事業検証目的3	事業検証目的4
事業検証目的	被災3県のNPOの組織基盤強化とNPOリーダー育成に、本プロジェクトがどのように寄与したのかを可視化し、ドナー、実施団体や関係者、プロジェクトの裨益者に対し、プロジェクトの成果を明示する。	本プロジェクトの実施によって了解することができた被災3県の市民活動の現状を抽出し、NPOの組織基盤強化とNPOリーダー育成という所期のねらいと、本プロジェクトの上位目標ととらえることができる市民中心の震災復興にとって本プロジェクトがいかに妥当なものであったかを検証する。	本プロジェクトの実施によって変化を認めることができた被災3県の市民活動の状況について、プロジェクトが果たした役割と貢献度を検証する。	今後日本NPOセンターおよび各地のNPO支援センター等が類似プロジェクトを実施する際に参考とできるように、本事業検証によって得た学びを広く共有する。
本事業評価における力点	主たる目的	あくまでも副次的な目的	あくまでも副次的な目的	主たる目的に準ずる
その理由	本プロジェクトが所期の目標達成にいかに寄与したかを検証することが本事業検証の主眼と考えられる。	「本事業検証の制約」で述べたように、1）本プロジェクトの上位目標は明確な形で明示されておらず、明示されているプロジェクトの達成目標とそれとの因果関係は、本事業評価において仮に想定されているに過ぎないし、2）本事業検証においてこの因果関係を検証するにはデータや作業手順が限られている。	本プロジェクトが実施されたことによる成果は、所期の達成目標に収斂される事項にとどまらず、したがってその諸側面を捕捉することは重要な作業だが、これを検証するデータが十分抽出され得るかは、計画されている作業手順から見て疑問である。	本プロジェクトの波及効果をねらううえで、これは重要な目的である。
DAC評価5項目との照合	有効性評価	妥当性評価	インパクト評価	持続性の評価
	プロジェクトという外部からの介入により、目標達成がなされたかを検証する。	日本NPOセンターの他の被災地支援プログラムやほかのアクターによる各種支援が、いかに被災地の市民の力量形成につながっているかを総合的、重層的、系統的、継続的に検証していくことは重要。	プロジェクトによる中長期的効果を予期されていなかったものも含め捕捉する。	プロジェクトの波及効果を検証し、フォローアップに役立てる。
	効率性評価		効率性評価	
	投入された財的・人的資源に対する成果を考察する。		投入された財的・人的資源に対する成果を考察する。	
	持続性の評価		持続性の評価	
	プロジェクト終了後（第二ステージおよびその後）において、効果が広がっているかを検証する。		プロジェクト終了後（第二ステージおよびその後）において、インパクトが広がっているかを検証する。	

別添2：事業検証チーム

アドバイザー：　大橋　正明（日本NPOセンター副代表理事、国際協力NGOセンター理事長）

検証作業担当者：今田　克司（日本NPOセンター理事、CSOネットワーク代表理事）（執筆主担当）
内山　智子（日本NPOセンター・本プロジェクト担当スタッフ）（執筆副担当）
新田　英理子（日本NPOセンター・事務局次長）（事業主管）
山本　朝美（日本NPOセンター・スタッフ）（データ分析補助）

現地調整：　葛巻　徹（岩手事務局）
岩淵　絵里子（岩手事務局）
青木　ユカリ（宮城事務局）
遠藤　智栄（福島事務局）

テキスト校正：　椎野　修平（日本NPOセンター・特別研究員）

別添3：本報告書執筆のデータソース一覧

3－1．閲覧文書（巻末資料参照）

資料1　企画概要
資料2　エントリーシート
資料3　団体情報
資料4　集合研修開催一覧
資料5　参加メンバー問診表
資料6　メンター問診表
資料7　メンターサポートQ＆A
資料8　メンターサポート記録シート
資料9　メンターサポートアンケート
資料10　メンター会議を有意義に実施するためのメンターアンケート
資料11　参加メンバー自己診断チェックリスト
資料12　参加メンバー成果可視化シート
資料13　メンター成果可視化シート
資料14　実践応援プログラム募集要項
資料15　事業検証アンケート
資料16　参加メンバーグループインタビュー　追加アンケート
資料17　変容チェックリスト
資料18　メンターグループインタビュー　事業検証アンケート

3－2. 事業検証インタビュー一覧

1. 参加メンバーへのインタビュー （参加者合計：41名）

2014年1月20日（月） 会場：大船渡市 リアスホール （インタビュアー：今田 克司、新田 英理子）

2014年1月21日（火） 会場：盛岡市 アイーナ （インタビュアー：今田 克司）

2014年1月27日（月） 会場：郡山市 郡山市総合福祉センター （インタビュアー：今田 克司、新田 英理子）

2014年1月28日（火） 会場：福島市 JANICふくしまNGO協働スペース （インタビュアー：今田 克司、新田 英理子）

2014年2月3日（月） 会場：仙台市 第二日本オフィスビル （インタビュアー：今田 克司、新田 英理子、内山 智子）

2. メンターへのインタビュー （参加者合計：21名）

2014年2月18日（火） 会場：デスカット東京日本ビル （インタビュアー：今田 克司、萩原 なつ子）

2014年2月20日（木） 会場：かながわ県民センター （インタビュアー：今田 克司）

2014年2月27日（木） 会場：日本NPOセンター 会議室 （インタビュアー：今田 克司）

2014年2月28日（金） 会場：大阪ボランティア協会 （インタビュアー：今田 克司、新田 英理子）

3. 事務局担当者へのインタビュー （インタビュアー：今田 克司）

2014年1月14日（火） 青木 ユカリ、遠藤 智栄

2014年1月15日（水） 葛巻 徹、岩淵 絵里子

2014年1月16日（木） 丸山 佑介

2014年1月17日（金） 内山 智子

2014年1月21日（月） 大吹 哲也

2014年1月22日（火） 山本 朝美

2014年1月30日（木） 吉田 建治

2014年2月10日（月） 新田 英理子

2014年2月13日（木） 田尻 佳史

4. ワールド・ビジョン・ジャパンへのインタビュー

2014年2月7日（金） 片山 信彦、木内 真理子 （インタビュアー：今田 克司）

2014年3月14日（金） 片山 信彦、木内 真理子 （インタビュアー：大橋 正明、今田 克司）

5. その他 外部者インタビュー （インタビュアー：今田 克司）

2014年3月19日（水） 東日本大震災支援全国ネットワーク 地域駐在員宮城 池座 剛

一般財団法人地域創造基金みやぎ 常務理事・事務局長 鈴木 祐司

2014年4月18日（金） 東日本大震災支援全国ネットワーク 事務局 岡坂 健

2014年4月21日（月） 特定非営利活動法人市民社会創造ファンド プログラムオフィサー 坂本 憲治

（ドラフト時のコメント協力）

別添4：実行委員、メンターリスト（所属、役職は2012年4月時点）

実行委員

片山　信彦	特定非営利活動法人　ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長
北村　美恵子	特定非営利活動法人　北海道NPOサポートセンター　理事
古賀　桃子	特定非営利活動法人　ふくおかNPOセンター　代表理事
実吉　威	特定非営利活動法人　市民活動センター神戸　事務局長
手塚　明美	特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会　理事
田尻　佳史	特定非営利活動法人　日本NPOセンター　常務理事・事務局長
三澤　章	特定非営利活動法人　あおもりNPOサポートセンター　常務理事・事務局長
水谷　綾	社会福祉法人　大阪ボランティア協会　事務局長
横田　能洋	特定非営利活動法人　茨城NPOセンター・コモンズ　常務理事・事務局長

メンター

青海　康男	特定非営利活動法人いしかわ市民活動ネットワーキングセンター　事務局長
阿部　圭宏	特定非営利活動法人　しがNPOセンター　代表理事
糸山　嘉彦	特定非営利活動法人　岡山NPOセンター　副代表理事
内田　洋子	特定非営利活動法人　NPO高知市民会議　代表理事
大久保　朝江	特定非営利活動法人　杜の伝言板ゆるる代表理事
岡村　こず恵	社会福祉法人　大阪ボランティア協会　事務局次長
鹿野　順一	特定非営利活動法人　＠リアスNPOサポートセンター 代表理事
岸田　眞代	特定非営利活動法人　パートナーシップ・サポートセンター 代表理事
北村　美恵子	特定非営利活動法人　北海道NPOサポートセンター　理事
黒田　かをり	一般財団法人　CSOネットワーク　理事・事務局長
古賀　桃子	特定非営利活動法人　ふくおかNPOセンター　代表理事
近藤　尚仁	特定非営利活動法人　くびき野NPOサポートセンター 事務局長
実吉　威	特定非営利活動法人　市民活動センター神戸　事務局長
志場　久起	特定非営利活動法人　わかやまNPOセンター　事務局長
田尻　佳史	特定非営利活動法人　日本NPOセンター　常務理事・事務局長
手塚　明美	特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会　理事
中村　隆行	特定非営利活動法人　ひろしまNPOセンター　副代表理事・常務理事
紅邑　晶子	特定非営利活動法人　せんだい・みやぎNPOセンター代表理事
三澤　章	特定非営利活動法人　あおもりNPOサポートセンター　常務理事・事務局長
水谷　綾	社会福祉法人　大阪ボランティア協会　事務局長
山下　茎三	おおいたNPO研究所 所長
横田　能洋	特定非営利活動法人　茨城NPOセンター・コモンズ　常務理事・事務局長

別添5：事務局体制

日本NPOセンター（全国事務局）

田尻　佳史	全体統括
新田　英理子	プロジェクト責任者
吉田　建治	事務局担当（2013年9月まで）
石原　真理子	事務局、会計担当（2013年3月まで）
山本　朝美	事務局、会計担当（2013年4月から）
丸山　佑介	事務局、テキスト担当（2013年4月から）

現地事務局

葛巻　徹	岩手県担当
岩淵　絵里子	岩手県担当サポート
丸山　佑介	岩手県担当サポート（2013年3月まで）
大吹　哲也	岩手県担当サポート（2013年4月から）
青木　ユカリ	宮城県担当
遠藤　智栄	宮城県担当、福島県担当
内山　智子	福島県担当

運営協力（2012年5月～9月）

特定非営利活動法人　せんだい・みやぎNPOセンター	伊藤　浩子
特定非営利活動法人　杜の伝言板ゆるる	甲山　知苗

別添6:プロジェクト参加メンバーリスト　および　メンターマッチングリスト
（所属、役職は2012年9月時点）

6－1:岩手県

名前	法人格	団体名	役職（プロジェクト開始時）	拠点	メンター
菊池　隼	特定非営利活動法人	hands	理事長	北上市	しがNPOセンター 阿部圭宏
小西　貴生	特定非営利活動法人	まちづくり・ぐるっとおおつち		大槌町	
柳澤　亮	特定非営利活動法人	遠野まごころネット	総務部チーフ	遠野市	
金野　侑		宮古災害復興支援チームM.A.D	事務局長	宮古市	NPO高知市民会議 内田洋子
八重樫　綾子	特定非営利活動法人	いわてGINGA－NET	代表	滝沢	
安居　菜々瀬	特定非営利活動法人	夢ネット大船渡	職員	大船渡市	
小川　淳也	特定非営利活動法人	おらが大槌夢広場	広報・営業	大槌町	パートナーシップサポートセンター 岸田眞代
黒沢　惟人	特定非営利活動法人	いわてNPO－NETサポート	事務局	北上市	
吉田　亨	特定非営利活動法人	くらしのサポーターズ	パーソナル・サポーター	盛岡市（宮古市）	
岡本　翔馬	一般社団法人	SAVE　TAKATA	陸前高田代表	陸前高田市	北海道NPOサポートセンター 北村美恵子
大棒　秀一	特定非営利活動法人	立ち上がるぞ！宮古市田老	理事長	宮古市	
吉田　光晴		いわてゆいっこ盛岡	副代表	盛岡市	
小原ナオ子		母と子の虹の架け橋	事務局長	花巻市（釜石市）	藤沢市市民活動推進連絡会 手塚明美
川原　康信	特定非営利活動法人	＠リアスNPOサポートセンター	事務局長	釜石市	
中野　圭	特定非営利活動法人	いわて連携復興センター	ネットワーク推進員	北上市	
志村　武範	特定非営利活動法人	いわてNPOフォーラム21	業務主任	盛岡市	せんだい・みやぎNPOセンター 紅邑晶子
三浦　まり江	特定非営利活動法人	レスパイトハウス・ハンズ		陸前高田市	
大吹　哲也	特定非営利活動法人	風・波デザイン	職員	紫波町	
浅石　裕司	一般社団法人	子どものエンパワメントいわて	職員	盛岡市	あおもりNPOサポートセンター 三澤章
上野　拓也		大槌STANDINGSTANDING	総務	大槌町	
蒲生　哲	特定非営利活動法人	陸前たがだ八起プロジェクト	事務局長	陸前高田市	
見年代　瞳	特定非営利活動法人	やませデザイン会議	事務局	久慈市	日本NPOセンター 田尻佳史

６－２：宮城県

名前	団体名	役職（プロジェクト開始時）	拠点	メンター
鹿島　美織	ぐるぐる応援団	代表	石巻市	いしかわ市民活動ネットワーキングセンター 青海康夫
坂本　一	一般社団法人　まなびの森	代表理事	角田市	
若山　陽子	国際交流協会ともだちin名取	事務局長	名取市	
西本　健太朗	特定非営利活動法人　石巻スポーツ振興サポートセンター	プロジェクトマネージャー	石巻市	大阪ボランティア協会 岡村こず恵
廣重　朋子	公益財団法人　みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	リーダー	仙台市	
村上　善昭	特定非営利活動法人　浦戸福祉会	事務局長	塩釜市	
太田　直人	特定非営利活動法人　故郷まちづくりナイン・タウン	プログラムスタッフ	登米市	@リアスNPOサポートセンター 鹿野順一
熊谷　由紀	特定非営利活動法人　さくらんぼくらぶ	理事長	登米市	
千葉　和義	特定非営利活動法人　Azuma－re	理事	栗原市	
石坂　幸子	特定非営利活動法人　みやぎ宅老連絡会	事務局員	仙台市	ふくおかNPOセンター 古賀桃子
大野　悠人	特定非営利活動法人　FOR　YOU　にこにこの家	事務局スタッフ	仙台市	
桃生　和成	特定非営利活動法人　せんだい・みやぎNPOセンター	多賀城市市民活動サポートセンター　副センター長	仙台市	
今川　理恵	特定非営利活動法人　おおさき地域創造研究会	スタッフ	大崎市	ひろしまNPOセンター 中村隆行
大塚　則子	いわぬま福興支援プロジェクト結の会	代表	岩沼市	
菊田　忠衛	一般社団法人　ボランティアステーションin気仙沼	代表理事	気仙沼市	
宍戸　哲也	特定非営利活動法人　住民互助福祉団体　ささえ愛山元	通所介護　兼　事務職	山元町	大阪ボランティア協会 水谷綾
根本　暁生	特定非営利活動法人　冒険あそび場―せんだい・みやぎネットワーク	海岸公園冒険広場統括責任者	仙台市	
堀川　晴代	特定非営利活動法人　杜の伝言板ゆるる	運営業務主任	仙台市	
柴田　滋紀	特定非営利活動法人　にじいろクレヨン	代表	石巻市	おおいたNPOデザインセンター 山下茎三
塚本　卓	一般社団法人　気仙沼復興協会	福祉部　事務長	気仙沼市	
鴻野　みち子	被災地障がい者センターみやぎ	事務局長	仙台市	―

６－３：福島県

名前	法人格	団体名	役職（プロジェクト開始時）	拠点	メンター
内山　愛美	特定非営利活動法人	ふくしまNPOネットワークセンター	市民活動サポートセンター　チーフ	福島市	岡山NPOセンター 糸山嘉彦
大波　尚美		小国からの咲顔	代表	伊達市	
郡　昌弘		南相馬市市民活動サポートセンター運営委員会	事務局員	南相馬市	杜の伝言板ゆるる 大久保朝江
清野　圭子	特定非営利活動法人	ビーンズふくしま	事務局長	福島市	
草刈　恒彦	特定非営利活動法人	まちづくりNPO新町なみえ	理事	二本松市	CSOネットワーク 黒田かをり
丹治　宏大		CRMS　市民放射能測定所　福島	理事長	福島市	
富永　美保		JDF被災地障がい者支援センターふくしま	支援員	郡山市	
岩崎　大樹		福島県中地域NPOネットワーク	理事	郡山市	くびき野NPOサポートセンター 近藤尚仁
鈴木　伸司	特定非営利活動法人	市民活動支援組織NIVO	理事長	会津坂下町	
今野　由喜		つながっぺ南相馬	代表	南相馬市	市民活動センター神戸 実吉威
首藤　亜希子	特定非営利活動法人	ココネット・マム	代表理事	郡山市	
新妻　裕美		南相馬災害FM		南相馬市	
佐々木　宗隆	特定非営利活動法人	シャローム	理事	福島市	わかやまNPOセンター 志場久起
佐藤　由紀子	特定非営利活動法人	まごころサービス福島センター	事務局長	福島市	
古山　郁	特定非営利活動法人	市民公益活動パートナーズ	代表理事	福島市	
宇田　丞	特定非営利活動法人	うつくしまNPOネットワーク	ふるさと絆情報ステーション統括責任者	郡山市	茨城NPOセンターコモンズ 横田能洋
照井　義勝	特定非営利活動法人	いわきNPOセンター	理事長	いわき市	
樋口　葉子	特定非営利活動法人	しらかわ市民活動支援会	副理事長	白河市	
金子　成寿	特定非営利活動法人	寺子屋方丈舎	事務局長	会津若松市	日本NPOセンター 田尻佳史
手塚　正	特定非営利活動法人	ソーシャル・デザイン・アソシエイツ	代表理事	いわき市	ー
吉田　恵美子	特定非営利活動法人	ザ・ピープル	理事長	いわき市	ー

別添7：事業検証アンケートに自由回答で記されたプロジェクトの参加理由

＊ NPO業界の面識を広めるため。

＊ 団体の代表者から参加するよう指名されたため。

＊ NPO法人の基本を学び、この先の運営や取組に生かしていきたかったからです。また、プロジェクトを通じた他団体との交流、事務局とのつながりにも期待を感じて参加しました。

＊ 勉強の機会をいただける、とのことだったのでありがたく参加させていただきました。

＊ いままで、関わりのなかった業種だったため、幅広い知識を身につけたく参加、もう一つは、他団体の活動の理解と幅広いネットワークを構築したく参加。

＊ NPOについての理解がまったくない状態だったため、理解を深められると感じたから。

＊ 入職してまもなくNPOに関してまったく知識がなく良いチャンスだと思ったため。

＊ 全くの素人の状態で走り続けていることから、一度体系的に実践を伴った検収を受けられるのは非常にありがたく魅力的に感じました。また同じジャンルの他法人の参加メンバーとコミュニケーションをとれるのも大きな魅力だと思います。

＊ NPOを立ち上げた時で、NPOを理解したかったので。

＊ 所属団体の活動レベルを向上させる為。

＊ 災害以降、本格的にNPOを仕事として取り組んでいく中でNPOについての理解を深めたかった。また団体の安定運営の道筋を知りたかった。地域以外の団体がどのような活動をしているか知りたかった。

＊ NPO経験がなかったため、そもそもNPOとはなにかを学びたいと思ったから。

＊ 担当業務上、NPOについての知識不足だったため。

＊ NPOセクターで働く上で必要な知識を一つでも得られればとの想いで参加しました。

＊ NPO職員としてのスキルの向上を図りたいと思ったため。また、岩手県内で活動する団体との有機的なネットワークを構築したいと思ったため。

＊ 震災以降のまちづくりを考えていく上で、団体内の活動だけでは得ることができない、学びや出会いの機会に恵まれると感じ、そこで得られたものは、団体を離れた後でも自分のものとして活かしていくことができると考えたため。

＊ 震災後に立ち上げた現地NPO法人につき、スキル不足が否めなかった、NPOのノウハウを培うとともに、NPO同士のコミュニケーションや情報の共有をはかりたかった。

＊ 知識等の再確認と習得・プログラムに興味があった。

＊ 3月11日の震災の前はNPOに関わったことがなく、ボランティアの方法論などが分からなかった。

＊ 運営の方法論に困ったり、資金に困ったりしたため。

＊ 事業内容の拡大に伴い団体規模も震災直後と比較して大きくなりつつありました。団体の目標を達成し、参画した参加メンバーの雇用を維持するために、欠くことのできない知識と経験が得られると考えました。

＊ NPOの基盤を強化することになると思ったから。

＊ 震災後NPO活動に取り組むようになったが、NPOや組織運営に関する知識がなく、目の前の活動に追われるままでは行き詰まりが来ると感じていた。そのような中、組織基盤強化に係る講座を受けられるという本プロジェクトの話を聞き、自分が担っている業務だけでなく団体全体を見渡せるような知識を付けられる機会になると思い、参加を希望した。

＊ リーダー職となり数年が経過するが、無知であること、自信とリーダーの意味をつかめていなかったため。

＊ NPO法人という職場に所属することになったのが昨年5月、私自身NPOについて理解が浅かったため、知識を蓄える必要があったことと他にどのような活動を行っている団体がいるのか、あるいは連携がとれるようになることを願って参加しました。

＊ 福祉団体以外のネットワークの強化。

＊ 活動資金を確保、若手の人材育成をするためにはどうしたら良いのかを学びたい。

＊ 自分自身がNPOについての理解を深めることが、組織運営にはまず必要だと感じたため。

＊ 助成してもらいしっかりと学べる機会はそうそうないと思ったので。

＊ NPO活動に関する様々な知識や技術、ノウハウなど（15の力）を身につけることで、法人の活動を地域の人たちに還元できるように、また法人の活動も包括的なものにつながればと思ったから。

＊ 指名される形ではあったが、個人のスキルアップと組織運営について広く学べると感じて参加した。

＊ 気持だけの個人的活動から、母体となる組織としての活動に変わり、様々な物事に突き当り知識の無さを痛感するに至り、知識を学べる機会と思い参加することにしました。

＊ NPO法人の職員として勤務していたものの、NPOの仕組みについて余り知識がなかったため、今回の研修を機に学ぼうと考え、参加しました。

＊「基盤整備コース」など、その後のプログラムが用意されており、団体としての力になる道が開かれていると感じたから。

＊「15の力」については、魅力的な内容ではあるものの、団体間で共有できずに「個人としての勉強」で終わってしまうおそれを感じていた。しかしこれについても、団体の他参加メンバー（担当理事・事務局職員）にある程度出席してもらう体制がとれることとなったので、参加を決断できた。ビジター受講が可能だったのは、よかった。

＊ これまで様々な研修に参加したことはあったが、同じ参加メンバーが長期間継続して学ぶことができるプログラムや、メンターサポート、助成金申請やインターンなど、これまでにないプログラムの内容が魅力的だった。

＊ 自分自身のステップアップ、スキルアップの必要性を感じていたため。

＊ 勉強になると判断したから。NPOについて知らないことが多かったから。

＊ 震災を機に設立された団体であるが故、そもそもNPOとしての活動意義が曖昧なまま活動していた上、行政からの委託による活動資金のみで運営されているために組織基盤が安定しないところに危惧を抱いていた事。また、講師や事務局の皆様はじめ、他地域の活動団体の皆さんとの繋がりが広がることで知見が広がり、地元に還元できると考えたから。

＊ 混迷した状況の中、その後の支援に役立つ知識やネットワークを持ちたいと思ったからです

＊ 震災後、改めて地域の活動団体の声を耳にしたことや、活動を通して、自団体の活動に対し、疑問を感じるようになり、「このままでは、いけない」と思うようになり、学びたいと切に思った。

＊ 理事長より参加するように指示を受けた。

＊ NPOの事を全く理解していなかったので、不安もありましたが良い機会だと思い参加させて頂きました。

＊ 事務局長になりたてで、団体全体を見るということが全く分からない状態だったから。

＊ 事務局長として何を見て、何をしたらよいかを知りたかった。

＊ 何も知らずに、代表理事と会議があるとのことで、ついて行き、次の会議より自分が出席するようになった。

＊ NPOというモノが何なのかさえ分からなかったため。

＊ 当団体の支援活動をもっと充実させ、活動継続するためにスキルが自分たちには不足していると感じたため、プロジェクトに参加して団体全体の力を向上させたいと思ったため。

＊ 自分の中間支援のスキルを高めるため。

＊ 団体の役員としてNPOを理解し知識を深め、団体にフィードバックしようと思ったから。

＊ 誕生まもないまたは誕生しようとしているNPOの組織体制の充実

＊ 他団体からこの研修を紹介され、ちょうど昨年度は会の組織基盤強化を目標としていて、勉強したいと思っていたので、ぜひ参加させていただきたいと思った。

＊ これまでの職務経験などを生かし、将来的に団体をNPO法人化するにあたり、有意義な経験ができると考えたため。

＊ 団体運営計画の立て方等、学びたいと思った。

＊ 組織変革・基盤強化について学びたかった

＊ 出来れば当法人の事務局を担う若手スタッフに参加して欲しかったのですが、日程調整が難しく、一旦PJ事務局にお断りを致しました。しかし、事務局からの強いご要望で、私が当法人の代表者として参加することになりました。

＊ 継続的な組織運営の重要性、多岐に渡る事業を遂行する上では、職員個々のスキルや見識の向上は必須であり、本助成事業はまさに課題解決に向けた一助になると思い参加した。

＊ これまで、NPOの組織運営などについて、体系的に学ぶ機会がなかったから。

＊ これを機会に学び、市内のNPO活動団体の仲間とともに組織基盤を強化したいと思ったから。

＊ 当初、他の理事が参加予定だったが、直前に体調不良となり、急遽参加することになった。

＊ 団体内において、スタッフ全員が運営・活動・組織理解など多岐にわたって理解し、活動につながることができるよう、伝達役として。

＊ 集合研修の内容が充実していたから。

＊ 周辺のスタッフが日常業務に忙殺されており、定期的な参加（福島市や郡山市へ出向くことを含め）が難しいと感じたため（理事長である自分が参加した）。

別添8：組織、個人の変容チェックリスト

8－1. 組織基盤変容チェックリスト

組織基盤変容チェックリスト

以下のことがらについて、***あなたの組織にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
1. ミッション、ビジョン、事業計画												
1.1. 団体のミッション	1 なかった	2 なかったがその必要性は意識されていた	3 一応あったが明文化されたものが組織内で共有されていなかった	4 明文化されたものが組織内で共有されていた	1 ない	2 ないがその必要性は意識されている	3 一応あるが明文化されたものが組織内で共有されていない	4 明文化されたものが組織内で共有されている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
1.2. 中長期計画	1 なかった	2 なかったがその必要性は意識されていた	3 一応あったが明文化されたものが組織内で共有されていなかった	4 明文化されたものが組織内で共有されていた	1 ない	2 ないがその必要性は意識されている	3 一応あるが明文化されたものが組織内で共有されていない	4 明文化されたものが組織内で共有されている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
2. ガバナンス・運営体制												
2.1. 理事会	1 定期的に開催されていなかった	2 定期的に開催されていたが、議事録（記録、管理、署名等）が不徹底だった	3 定期的に開催され、議事録（記録、管理、署名など）も徹底していたが、スタッフ等への周知が不徹底だった	4 定期的に開催され、議事録（記録、管理、署名等）やスタッフ等への周知も徹底されていた	1 定期的に開催されていない	2 定期的に開催されているが、議事録（記録、管理、署名等）が不徹底	3 定期的に開催され、議事録（記録、管理、署名など）も徹底しているが、スタッフ等への周知が不徹底	4 定期的に開催され、議事録（記録、管理、署名等）やスタッフ等への周知も徹底されている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
2.2. 理事・役員と事務局の役割分担、役員の組織運営への関わりや権限の範囲	1 明確でなかった	2 明確ではなかったが、そこに課題があることは意識されていた	3 一応の共通理解はあったが認識の違いが表面化することもあった	4 共通理解が組織内で共有されていた	1 明確でない	2 明確ではないが、そこに課題があることは意識されている	3 一応の共通理解はあるが認識の違いが表面化することもある	4 共通理解が組織内で共有されている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない

組織基盤変容チェックリスト

以下のことがらについて、***あなたの組織にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
3. 財源・支援者												
3.1. 組織のミッションに見合った助成金・補助金申請（委託金は除く）	1 活発に申請していなかった	2 活発に申請してはいなかったが、どんな助成金・補助金に申請したらよいか、意識されていた	3 活発に申請していたが、助成金・補助金獲得にはあまり至っていなかった	4 活発に申請し、助成金・補助金獲得に至っていた	1 活発に申請していない	2 活発に申請してはいないが、どんな助成金・補助金に申請したらよいか、意識されている	3 活発に申請しているが、助成金・補助金獲得にはあまり至っていない	4 活発に申請し、助成金・補助金獲得に至っている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
3.2. 寄付・会員集め	1 ほとんど集めていなかった	2 ほとんど集めていなかったが、集める必要性は意識されていた	3 集めていたが、結果にはあまりつながっていなかった	4 集め、結果につながっていた	1 ほとんど集めていない	2 ほとんど集めていないが、集める必要性は意識されている	3 集めているが、結果にはあまりつながっていない	4 集め、結果につながっている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
4. ネットワーク・参加												
4.1. 組織の事業と直接かかわりをもたない関係者（他のNPO、会員、行政職員、企業関係者、マスコミ等）とのやりとり	1 ほとんどやりとり（メール、電話、訪問等）はなかった	2 ほとんどやりとりはなかったが、情報・意見交換の必要性は意識されていた	3 ある程度やりとりをしていたが、それが組織の事業や連携、広報につながることはなかった	4 ある程度やりとりをし、それが組織の事業や連携、広報につながっていた	1 ほとんどやりとり（メール、電話、訪問等）はない	2 ほとんどやりとりはないが、情報・意見交換の必要性は意識している	3 ある程度やりとりをしているが、それが組織の事業や連携、広報につながってはいない	4 ある程度やりとりをし、それが組織の事業や連携、広報につながっている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
4.2. ボランティア	1 ほとんど集めていなかった	2 ほとんど集めていなかったが、集める必要性は意識されていた	3 集めていたが、実際にボランティアでかかわる人は少なかった	4 集め、実際にボランティアでかかわる人がある程度いた	1 ほとんど集めていない	2 ほとんど集めていないが、集める必要性は意識されている	3 集めているが、実際にボランティアでかかわる人は少ない	4 集め、実際にボランティアでかかわる人がある程度いる	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない

組織基盤変容チェックリスト

以下のことがらについて、***あなたの組織にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月） （１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点） （１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係 が ある／ない (いずれかに○をつけてください)			
5. 労務・会計												
5.1. 労務管理	1 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めが徹底されていなかった	2 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されていたが、職員の人材育成のための機会はあまり設けられていなかった	3 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されており、職員の人材育成についても意識されていたがあまり実践されていなかった	4 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されており、職員の人材育成も（不十分でも）実践されていた	1 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めが徹底されていない	2 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されているが、職員の人材育成のための機会はあまり設けられていない	3 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されており、職員の人材育成についても意識されているがあまり実践されていない	4 職員との契約や基本的な労務規定等の取り決めは徹底されており、職員の人材育成も（不十分でも）実践されている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
5.2. 会計	1 非営利組織としての基本的な会計管理システムがなにか理解されていなかった	2 非営利組織としての基本的な会計管理システムがなにか理解されてはいたが、システムが構築されていなかった	3 非営利組織としての基本的な会計管理システムは構築されていたが、その運用で徹底されていない部分もあった	4 非営利組織としての基本的な会計管理システムが構築され、その運用もしっかりなされていた	1 非営利組織としての基本的な会計管理システムがなにか理解されていない	2 非営利組織としての基本的な会計管理システムがなにか理解されてはいるが、システムが構築されていない	3 非営利組織としての基本的な会計管理システムは構築されているが、その運用で徹底されていない部分もある	4 非営利組織としての基本的な会計管理システムが構築され、その運用もしっかりなされている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
6. 情報開示、評価												
6.1. 情報開示	1 非営利組織としての基本的な情報開示がなにか理解されていなかった	2 非営利組織としての基本的な情報開示がなにか理解されてはいたが、実際の情報開示（ホームページなどを通じて）があまりできていなかった	3 ある程度の情報開示がなされていた（定款、組織体制、年次会計報告等）	4 情報開示がなされ（定款、組織体制、年次会計報告等）、問い合わせに対応する態勢もできていた	1 非営利組織としての基本的な情報開示がなにか理解されていない	2 非営利組織としての基本的な情報開示がなにか理解されてはいるが、実際の情報開示（ホームページなどを通じて）があまりできていない	3 ある程度の情報開示がなされている（定款、組織体制、年次会計報告等）	4 情報開示がなされ（定款、組織体制、年次会計報告等）、問い合わせに対応する態勢もできている	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない

組織基盤変容チェックリスト

以下のことがらについて、***あなたの組織にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月） （１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点） （１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係が ある／ない （いずれかに○をつけてください）			
6.2. 評価	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	事業評価、組織評価の必要性が理解されていなかった	事業評価、組織評価の必要性は理解されていたが、実際に評価をすることはあまりなかった	事業評価、組織評価を行うことがあったが、評価指標の策定、組織内での評価の共有など、不十分な部分が多かった	事業評価、組織評価を行い、正確な評価指標の策定、組織内での評価の共有もなされていた	事業評価、組織評価の必要性が理解されていない	事業評価、組織評価の必要性は理解されているが、実際に評価をすることはあまりない	事業評価、組織評価を行っているが、評価指標の策定、組織内での評価の共有など、不十分な部分が多い	事業評価、組織評価を行い、正確な評価指標の策定、組織内での評価の共有もなされている				

コメント欄

8－2. 参加メンバー変容チェックリスト（代表・事務局長）

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長用）
以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
1. NPOについての理解、知識について												
1.1. NPO全般についての理解、知識は、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	ほとんどなかった	ある程度あったが、断片的で体系的理解ではなかった	かなり体系的に理解していたつもりだが、日々の活動の実践ではあまり生かされていなかった	かなり体系的に理解し、日々の活動の実践に生かされていた	ほとんどない	ある程度あるが、断片的で体系的理解ではない	かなり体系的に理解しているつもりだが、日々の活動の実践ではあまり生かされていない	かなり体系的に理解し、日々の活動の実践に生かされている				
1.2. 自分のNPOについての理解、知識を、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	人に話したりプレゼンすることは皆無で、考えたこともなかった	人に話したりプレゼンすることはほとんどなかった	人に話したりプレゼンすることはなかったが、機会があればある程度はできた	人に話したりプレゼンする機会があった	人に話したりプレゼンすることは皆無で、考えたこともない	人に話したりプレゼンすることはほとんどない	人に話したりプレゼンすることはないが、機会があればある程度はできる	人に話したりプレゼンする機会がある				
2. NPOにかかわる者としての自信、姿勢、意識												
2.1. NPOにかかわる者として（基本姿勢）	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、わからなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていたつもりだが、そのことにあまり自信はなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていたが、それを人に話すことはなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていて、機会があればそれを人に話したりしていた	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、わからない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっているつもりだが、そのことにあまり自信はない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっているが、それを人に話すことはない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていて、機会があればそれを人に話したりしている				

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長用）
以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
2.2. NPOにかかわる者として（組織内での振る舞い）	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量がどうあるべきか、あまり理解していなかった	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量がどうあるべきか、ある程度理解していたが、それらを変えたり伸ばしたりする努力はあまりしていなかった	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量をある程度理解し、それらを伸ばす努力もできるだけしていたが、力量の変化はあまり認められなかった	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量を理解し、アドバイス、役割分担や権限委譲をしていた	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量がどうあるべきか、あまり理解していない	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量がどうあるべきか、ある程度理解しているが、それらを変えたり伸ばしたりする努力はあまりしていない	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量をある程度理解し、それらを伸ばす努力もできるだけしているが、力量の変化はあまり認められない	自分以外の働き手（スタッフ等）の仕事ぶりや力量を理解し、アドバイス、役割分担や権限委譲をしている				
3.組織の課題について												
自分のNPOについての理解や姿勢からみて、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	組織の課題がなんであるか、わからなかった	組織の課題は漠然と見えていたが、「これが課題」と把握してはいなかった	組織の課題を課題として把握していたが、それらについて改善に向けた行動は起こしていなかった	組織の課題を課題として把握していたが、それらについて改善に向けた行動を起こしていた	組織の課題がなんであるか、わからない	組織の課題は漠然と見えているが、「これが課題」と把握してはいない	組織の課題を課題として把握しているが、それらについて改善に向けた行動は起こしていない	組織の課題を課題として把握し、それらについて改善に向けた行動を起こしている				
4．ネットワーク												
組織の事業と直接かかわりをもたないNPO関係者（県内、県外）とのつながり	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	ほとんどつながりはなかった	ある程度知り合いがいた程度だった	ある程度親しい人も含め知り合いがいたが、あまり情報交換や交流することはなかった	ある程度親しい人も含め知り合いがいて、機会をみつけて情報交換やお互いに相談等していた	ほとんどつながりはない	ある程度知り合いがいる程度	ある程度親しい人も含め知り合いがいるが、あまり情報交換や交流することはない	ある程度親しい人も含め知り合いがいて、機会をみつけて情報交換やお互いに相談等している				

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長用）
以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月） （１～４いずれかに○をつけてください ）	現在（2014年1月時点） （１～４いずれかに○をつけてください ）	この変化はこのプロジェクト参加と関係 が ある／ない （いずれかに○をつけてください）
５．プロジェクト参加の組織への還元について		1 プロジェクトで学んだことを組織にはほとんど還元できていない 2 プロジェクトで学んだことを組織にはほとんど還元できていないが、還元しようという意識はある 3 プロジェクトで学んだことを、ある程度は組織に還元できている 4 プロジェクトで学んだことを、積極的に組織に還元し、学びの共有ができている	

6. 以下、該当するものに○をつけてください

あなたの県は	岩手県	宮城県	福島県

基盤整備コース（組織基盤強化のための資金援助）を	活用した	活用しなかった
インターンシップコースを	活用した	活用しなかった
組織力向上サポート助成を	活用している	活用していない

コメント欄

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長以外）
以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
1. NPOについての理解、知識について												
1.1. NPO全般についての理解、知識は、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	ほとんどなかった	ある程度あったが、断片的で体系的理解ではなかった	かなり体系的に理解していたつもりだが、日々の活動の実践ではあまり生かされていなかった	かなり体系的に理解し、日々の活動の実践に生かされていた	ほとんどない	ある程度あるが、断片的で体系的理解ではない	かなり体系的に理解しているつもりだが、日々の活動の実践ではあまり生かされていない	かなり体系的に理解し、日々の活動の実践に生かされている				
1.2. 自分のNPOについての理解、知識を、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	人に話したりプレゼンすることは皆無で、考えたこともなかった	人に話したりプレゼンすることはほとんどなかった	人に話したりプレゼンすることはなかったが、機会があればある程度はできた	人に話したりプレゼンする機会があった	人に話したりプレゼンすることは皆無で、考えたこともない	人に話したりプレゼンすることはほとんどない	人に話したりプレゼンすることはないが、機会があればある程度はできる	人に話したりプレゼンする機会がある				
2. NPOにかかわる者としての自信、姿勢、意識												
2.1. NPOにかかわる者として（基本姿勢）	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、わからなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていたつもりだが、そのことにあまり自信はなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていたが、それを人に話すことはなかった	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていて、機会があればそれを人に話したりしていた	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、わからない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっているつもりだが、そのことにあまり自信はない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっているが、それを人に話すことはない	どういう姿勢や意識で仕事に向かうべきか、ある程度はわかっていて、機会があればそれを人に話したりしている				

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長以外）

以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月）（１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点）（１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係がある／ない（いずれかに○をつけてください）			
2.2. NPOにかかわる者として（組織内での振る舞い）	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	自分に与えられた仕事に専心し、それ以外には興味がなかった	自分の仕事以外にも興味はもっていたが、それらについて学ぼうとはしなかった	自分の仕事以外にも興味をもち、機会をみつけて学ぼうとしていた	自分の仕事以外にも興味をもち、できるだけ積極的に進言、提案、アドバイスをしていた	自分に与えられた仕事に専心し、それ以外には興味がない	自分の仕事以外にも興味はもっているが、それらについて学ぼうとはしていない	自分の仕事以外にも興味をもち、機会をみつけて学ぼうとしている	自分の仕事以外にも興味をもち、できるだけ積極的に進言、提案、アドバイスをしている				
3.組織の課題について												
自分のNPOについての理解や姿勢からみて、	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	組織の課題がなんであるか、わからなかった	組織の課題は漠然と見えていたが、「これが課題」と把握してはいなかった	組織の課題を課題として把握していたが、それらについて意見を言ったり提案したりはしなかった	組織の課題を課題として把握し、それらについて意見を言ったり提案したりしていた	組織の課題がなんであるか、わからない	組織の課題は漠然と見えているが、「これが課題」と把握してはいない	組織の課題を課題として把握しているが、それらについて意見を言ったり提案したりはしていない	組織の課題を課題として把握し、それらについて意見を言ったり提案したりしている				
4．ネットワーク												
組織の事業と直接かかわりをもたないNPO関係者（県内、県外）とのつながり	1	2	3	4	1	2	3	4	直接関係ある	少し関係ある	関係ない	変化していない
	ほとんどつながりはなかった	ある程度知り合いがいた程度だった	ある程度親しい人も含め知り合いがいたが、あまり情報交換や交流することはなかった	ある程度親しい人も含め知り合いがいて、機会をみつけて情報交換やお互いに相談等していた	ほとんどつながりはない	ある程度知り合いがいる程度	ある程度親しい人も含め知り合いがいるが、あまり情報交換や交流することはない	ある程度親しい人も含め知り合いがいて、機会をみつけて情報交換やお互いに相談等している				

メンバー変容チェックリスト（代表、事務局長以外）
以下のことがらについて、***あなた個人にとって***あてはまる項目を選んでください。

	プロジェクト参加時点（2012年4月） （１～４いずれかに○をつけてください ）				現在（2014年1月時点） （１～４いずれかに○をつけてください ）				この変化はこのプロジェクト参加と関係 が ある／ない （いずれかに○をつけてください）
5．プロジェクト参加の組織への還元について					1 プロジェクトで学んだことを組織にはほとんど還元できていない	2 プロジェクトで学んだことを組織にはほとんど還元できていないが、還元しようという意識はある	3 プロジェクトで学んだことを、ある程度は組織に還元できている	4 プロジェクトで学んだことを、積極的に組織に還元し、学びの共有ができている	

6. 以下、該当するものに○をつけてください

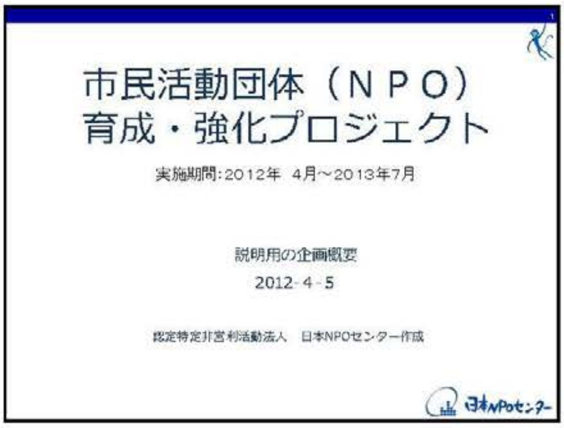
あなたの県は	岩手県	宮城県	福島県

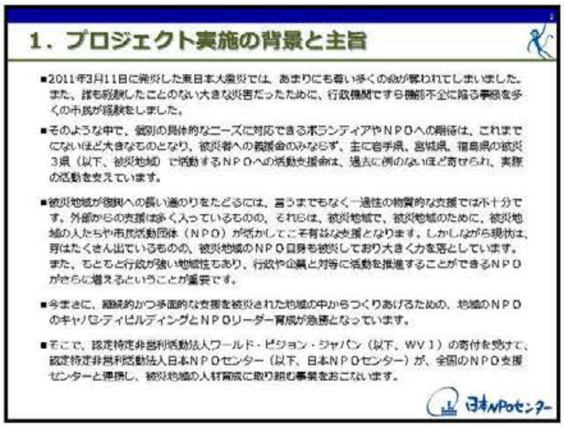
基盤整備コース（組織基盤強化のための資金援助）を	活用した	活用しなかった
インターンシップコースを	活用した	活用しなかった
組織力向上サポート助成を	活用している	活用していない

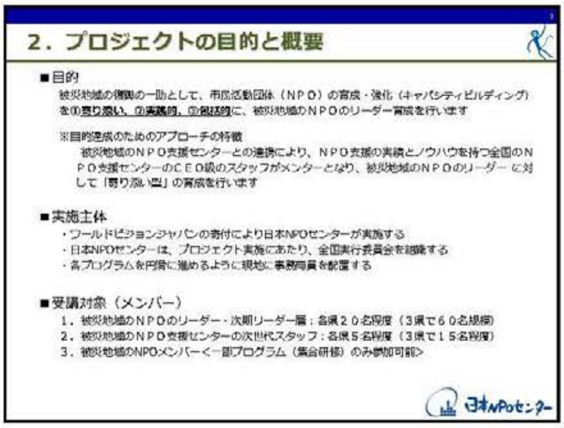
コメント欄

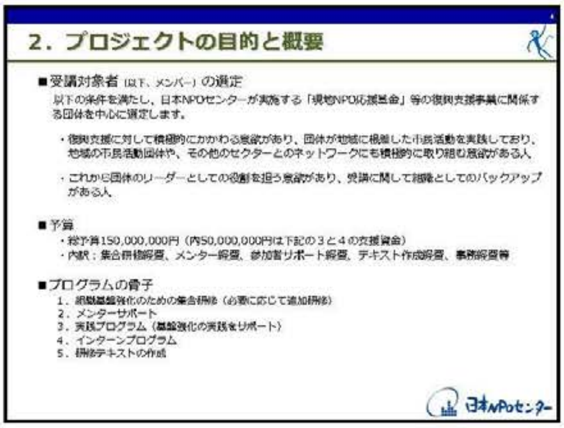
資料

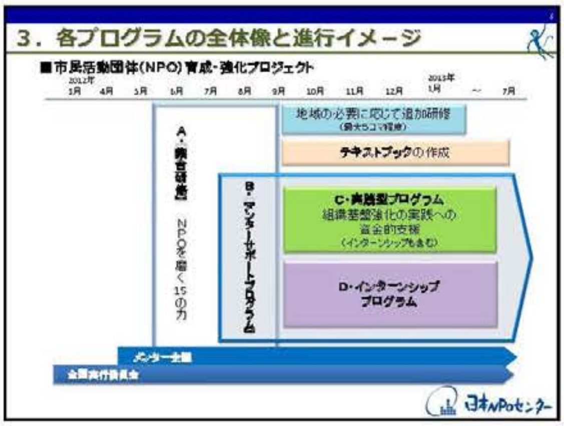
資料1：企画概要


市民活動団体（ＮＰＯ）
育成・強化プロジェクト
実施期間：2012年 4月～2013年7月
説明用の企画概要
2012-4-5
認定特定非営利活動法人　日本NPOセンター作成
日本NPOセンター


１．プロジェクト実施の背景と主旨
■2011年3月11日に発災した東日本大震災では、あまりにも尊い多くの命が奪われてしまいました。また、誰も経験したことのない大きな災害だったために、行政機関ですら機能不全に陥る事態を多くの市民が経験をしました。
■そのような中で、個別の具体的なニーズに対応できるボランティアやＮＰＯへの期待は、これまでにないほど大きなものとなり、被災者への義援金のみならず、主に岩手県、宮城県、福島県の被災3県（以下、被災地域）で活動するＮＰＯへの活動支援金は、過去に例のないほど寄せられ、実際の活動を支えています。
■被災地域が復興への長い道のりをたどるには、言うまでもなく一過性の物質的な支援では不十分です。外部からの支援は多く入っているものの、それらは、被災地域で、被災地域のために、被災地域の人たちや市民活動団体（ＮＰＯ）が活かしてこそ有益な支援となります。しかしながら現状は、芽はたくさん出ているものの、被災地域のＮＰＯ自身も被災しており大きく力を落としています。また、もともと行政が強い地域性もあり、行政や企業と対等に活動を推進することができるＮＰＯがさらに増えるということが重要です。
■今まさに、継続的かつ多面的な支援を被災された地域の中からつくりあげるための、地域のＮＰＯのキャパシティビルディングとＮＰＯリーダー育成が急務となっています。
■そこで、認定特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン（以下、ＷＶＪ）の寄付を受けて、認定特定非営利活動法人日本ＮＰＯセンター（以下、日本ＮＰＯセンター）が、全国のＮＰＯ支援センターと連携し、被災地域の人材育成に取り組む事業をおこないます。
日本NPOセンター


２．プロジェクトの目的と概要
■目的
被災地域の復興の一助として、市民活動団体（ＮＰＯ）の育成・強化（キャパシティビルディング）を①寄り添い、②実践的、③包括的に、被災地域のＮＰＯのリーダー育成を行います
※目的達成のためのアプローチの特徴
被災地域のＮＰＯ支援センターとの連携により、ＮＰＯ支援の実績とノウハウを持つ全国のＮＰＯ支援センターのＣＥＯ級のスタッフがメンターとなり、被災地域のＮＰＯのリーダーに対して「寄り添い型」の育成を行います
■実施主体
・ワールドビジョンジャパンの寄付により日本NPOセンターが実施する
・日本NPOセンターは、プロジェクト実施にあたり、全国実行委員会を組織する
・各プログラムを円滑に進めるように現地に事務局員を配置する
■受講対象（メンバー）
１．被災地域のＮＰＯのリーダー・次期リーダー層：各県２０名程度（３県で６０名規模）
２．被災地域のＮＰＯ支援センターの次世代スタッフ：各県５名程度（３県で１５名程度）
３．被災地域のNPOメンバー＜一部プログラム（集合研修）のみ参加可能＞
日本NPOセンター


２．プロジェクトの目的と概要
■受講対象者（以下、メンバー）の選定
以下の条件を満たし、日本NPOセンターが実施する「現地NPO応援基金」等の復興支援事業に関係する団体を中心に選定します。
・復興支援に対して積極的にかかわる意欲があり、団体が地域に根差した市民活動を実践しており、地域の市民活動団体や、その他のセクターとのネットワークにも積極的に取り組む意欲がある人
・これから団体のリーダーとしての役割を担う意欲があり、受講に関して組織としてのバックアップがある人
■予算
・総予算150,000,000円（内50,000,000円は下記の３と４の支援資金）
・内訳：集合研修経費、メンター経費、参加者サポート経費、テキスト作成経費、事務経費等
■プログラムの骨子
１．組織基盤強化のための集合研修（必要に応じて追加研修）
２．メンターサポート
３．実践プログラム（基盤強化の実践をサポート）
４．インターンプログラム
５．研修テキストの作成
日本NPOセンター


３．各プログラムの全体像と進行イメージ
■市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト
2012年
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
2013年
1月
～
7月
地域の必要に応じて追加研修
テキストブックの作成
A・集合研修「NPOを磨く15の力」
B・メンターサポートプログラム
C・実践型プログラム
組織基盤強化の実践への資金的支援
（インターンシップも含む）
D・インターンシップ
プログラム
メンター会議
全国実行委員会
日本NPOセンター

４．プロジェクトの具体的な内容のイメージ
A．集合研修「ＮＰＯを磨く15の力」＜実施： 2012年4月～2013年8月＞
0 ウォーミングアップ 90
1．ＮＰＯ基礎編
2．ＮＰＯ事業編
3．ＮＰＯ組織編
4．ＮＰＯコミュニケーション編
4 【見通す力】 中長期の計画 180
5 【組立てる力】 単年度の計画 180
8 【育てる力】 スタッフの育成のあり方 90
9 ボランティアコーディネーション 90
14 【伝える力】 180
15 180
日本NPOセンター

4．プロジェクトの具体的な内容のイメージ

B．メンターサポートプログラム　＜実施：2012年4月～2013年7月＞

■目的

被災地域のＮＰＯのリーダーが、長期的に地域コミュニティの構築を行えるように、全国のＮＰＯ支援センターのＣＥＯ級のスタッフ（ＮＰＯ支援の業務と具体的なノウハウを経験値として持っている）がメンターとなり、被災地域のＮＰＯ支援センターとの連携により、「寄り添い型」のリーダー育成を行います

■メンターの役割

1．集合研修の内容に関するフォロー
2．メンバーが引き続き活動をする時の疑問や質問に応える
3．組織の「課題」を共有し、解決に導く手助けをする
4．メンバーの個別具体的な「課題」を共有し、解決に導く手助けをする

■マッチングについて

集合研修終了までに事務局がマッチング案を作成する
→1メンバーにつき、1メンター。1メンターは同地域のメンバー3名程度を担当する（全員で21名程度）

■実施方法

電話やメール、必要に応じて現地に出向いてのサポートを行う

日本NPOセンター

4．プロジェクトの具体的な内容のイメージ

C．実践型プログラム：組織基盤強化の実践への資金的支援

＜実施：2012年4月～2013年7月＞

■内容

メンターサポートを行う中で、メンバーが具体的に行いたい「基盤整備事業」がある場合、研修等で学んだことの実践編として取り組むための資金的支援を行います

■実施期間

実施時期：3～6ヶ月の期間で2013年7月までに完了する事業

D．インターンシッププログラム＜実施：2012年4月～2013年7月＞

■内容

メンターサポートを行う中で、メンターが他の組織にインターンに行くことによって、成長が見込まれると予想される場合、メンターがメンバーに提案し、メンバーが応募した場合に資金的支援を行います

■期間

1週間、2週間、1ヶ月から選択

※上記の2つのプログラムは申請を受け審査して決定する。

日本NPOセンター

5．実施協力者　（実行委員及びメンター一覧）

名前	団体名	役職
北村　美幸子　※	北海道ＮＰＯサポートセンター	理事
三浦　隆　※	あおもりＮＰＯサポートセンター	常務理事・事務局長
鹿野　順一	@リアスＮＰＯサポートセンター	代表理事
大久保　朝江	杜の伝言板ゆるる	代表理事
紅邑　晶子	せんだい・みやぎＮＰＯセンター	代表理事
横田　能洋　※	茨城ＮＰＯセンター・コモンズ	常務理事・事務局長
手塚　明美　※	藤沢市市民活動推進連絡会	理事
岸田　眞代	パートナーシップ・サポートセンター	代表理事
近藤　周仁	くびき野ＮＰＯサポートセンター	事務局長
齊藤　康男	いしかわ市民活動ネットワーキングセンター	事務局長
阿部　圭宏	しがＮＰＯセンター	代表理事
水谷　綾　※	大阪ボランティア協会	事務局長
岡村　こず恵	大阪ボランティア協会	事務局次長
赤場　久起	わかやまＮＰＯセンター	事務局長
実吉　威　※	市民活動センター神戸	事務局長
米山　晃彦	岡山ＮＰＯセンター	副代表理事
中村　隆行	ひろしまＮＰＯセンター	副代表理事・常務理事
内田　洋子	ＮＰＯ高知市民会議	代表理事
古賀　桃子　※	ふくおかＮＰＯセンター	代表理事
山下　恵三	おおいたＮＰＯ研究所	所長
黒田　かをり	ＣＳＯネットワーク	理事・事務局長
田尻　佳史　※	日本ＮＰＯセンター	常務理事・事務局長
片山　信彦　※	ワールド・ビジョン・ジャパン	事務局長

注1）一部のメンターは調整中
注2）※印は、全国実行委員

日本NPOセンター

資料2：エントリーシート

●「市民活動団体（ＮＰＯ）育成・強化プロジェクト」エントリーシート

記入日　　年　　月　　日

団体名（ふりがな）		設立年月日：
参加者氏名	ふりがな：	役職名：
	氏名：	入職年月日：
団体連絡先	〒	
連絡先	団体 TEL：	団体 FAX：
	携帯電話：	Email：
	携帯メール：	

団体の活動内容 300 字以内で簡潔に	
あなたの 主な担当業務	
あなたが団体の課題だと思っていること（解決したい事）	
あなたがあなた自身の課題だと思っていること （どんな成長がしたいか）	
参加にあたっての抱負	

特定非営利活動法人　日本 NPO センター宛

「市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト」の主旨に賛同し、
当団体のスタッフ[スタッフ名]＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の参加を申請します。

団体名：　　代表者氏名：　　（印）

【事務局欄】

資料3:団体情報

団体情報　　年　月　日現在

設 立 年 月	西暦　　年　月	設立後 満　　年	法人格取得 西暦　　年　月			
活動開始の経緯						
通常活動 ※主な活動名を５つ以内記入 ※震災後に活動開始した団体は未記入	・ ・ ・ ・ ・					
震災対応活動 ※主な活動名を５つ以内記入	・ ・ ・ ・ ・					
震災対応活動の対象地域と対象者	主な活動対象地域 支援対象者層と規模　　(　　)人規模					
震災対応活動の主な連携先 ※組織名を３つ以内	・ ・ ・					
理 事 ・ 監 事	理事	人	監事	人		
団 体 職 員	常勤有給	人	常勤無給	人	常勤合計	人
	非常勤有給	人	非常勤無給	人	非常勤合計	人
ボランティア	人					
正　会　員	個人会員	人	団体会員	団体		
その他会員	個人会員	人	団体会員	団体		
専門協力者	・ ・ ・				＊通常活動における主な専門協力者を3名以内ご記入ください(所属、氏名)。	
連 携 機 関	・ ・ ・				＊通常活動における主な連携機関を3つ以内ご記入ください。	
前年度の支出額	千円					
上記前年度の収入内訳	会費	千円	%	自主事業	千円	%
	寄付金	千円	%	委託事業	千円	%
	助成金/補助金	千円	%	その他	千円	%
本年度の予算額	千円					
WEB サイト	http://					

＊現地事務局にデータでご返信ください。

●市民活動団体（ＮＰＯ）育成・強化プロジェクト●

NPOを磨く15の力 ［開催一覧］

第1回は、集合合宿のため1 カ所にて開催
第2回からは、2 会場とも同様の研修内容を行い、活動地域から最寄りの会場に参加

		岩手（日時／会場／トレーナー）	宮城（日時／会場／トレーナー）	福島（日時／会場／トレーナー）
第1回		2012 年5 月30 日 花巻市交流会館 ／5 月31 日 東和総合福祉センター	2012 年6 月2 日、3日 ホテルキャッスルプラザ多賀城	2012 年5 月26 、27日 磐梯熱海温泉 浅香荘
	①親る力「日本のNPO のカタチ」	山岡 義典（日本NPOセンター 顧問）	山岡 義典（日本NPOセンター 顧問）	山岡 義典（日本NPOセンター 顧問）
	②興す力「価値を生み出すNPO の姿」	手塚 明美（藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長）	手塚 明美（藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長）	手塚 明美（藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長）
	③提案する力「思いを形に、共感を得る企画」	田尻 佳史（日本NPOセンター 常任理事・事務局長）	田尻 佳史（日本NPOセンター 常任理事・事務局長）	古賀 桃子（ふくおかNPOセンター 代表）
第2回		2012 年6 月11 日／北上市生涯学習センター（北上会場）	2012 年6 月20 日／仙台市市民活動サポートセンター（仙台会場）	2012 年6 月13 日／福島テルサ（福島会場）
		2012 年6 月12 日／大槌町中央公民館（大槌会場）	2012 年6 月21 日／登米市米谷公民館（登米会場）	2012 年6 月14 日／郡山市文化センター（郡山会場）
	④組立てる力「事業計画を単年度と中長期で捉える」	北村 美惠子（北海道NPOサポートセンター 理事）	古賀 桃子（ふくおかNPOセンター 代表）	実吉 威（市民活動センター神戸 理事・事務局長）
	⑤見通す力「組織の財源のあり方と資金管理」	田尻 佳史（日本NPOセンター 常任理事・事務局長）	北村 美惠子（北海道NPOサポートセンター 理事）	古賀 桃子（ふくおかNPOセンター 代表）
				／田尻 佳史（日本NPOセンター 常任理事・事務局長）
第3回		2012 年6 月25 日／なはんプラザ（花巻会場）	2012 年7 月4 日／登米市米谷公民館（登米会場）	2012 年6 月27 日／郡山市富久山学習センター（郡山会場）
		2012 年6 月26 日／釜石地区合同庁舎（釜石会場）	2012 年7 月5 日／仙台市市民活動サポートセンター（仙台会場）	2012 年6 月28 日／いわき産業創造館（いわき会場）
	⑥持続する力「パワーを生み出す組織のあり方」	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）
	⑦推進する力「ここで差が出るマネジメント」	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）
	⑧育てる力「成長する人づくり」	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）	横田 能洋（茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長）
第4回		2012 年7 月6 日／なはんプラザ（花巻会場）	2012 年7 月18 日／エスポールみやぎ（仙台会場）	2012 年7 月12 日／郡山カルチャーパーク（郡山会場）
		2012 年7 月7 日／釜石地区合同庁舎（釜石会場）	2012 年7 月19 日／登米市米谷公民館（登米会場）	2012 年7 月13 日／コラッセふくしま（福島会場）
	⑨巻き込む力「思いを受け止め共感を広げるボランティアコーディネート」	水谷 綾（大阪ボランティア協会 事務局長）	水谷 綾（大阪ボランティア協会 事務局長）	水谷 綾（大阪ボランティア協会 事務局長）
	⑩整える力「安心・納得・自己実現の労務管理」	家村 啓三（社労士家村事務所 所長）	家村 啓三（社労士家村事務所 所長）	家村 啓三（社労士家村事務所 所長）
	⑪組む力「健全で成果が出るパートナーシップ」	手塚 明美（藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長）	水谷 綾（大阪ボランティア協会 事務局長）	手塚 明美（藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長）
第5回		2012 年7 月23 日／岩手県教育会館（盛岡会場）	2012 年8 月2 日／エル・パーク仙台（仙台会場）	2012 年7 月25 日／郡山カルチャーパーク（郡山会場）
		2012 年7 月24 日／釜石地区合同庁舎（釜石会場）	2012 年8 月3 日／登米市米谷公民館（登米会場）	2012 年7 月26 日／いわき産業創造館（いわき会場）
	⑫振り返る力「やれば役立つラクラク評価」	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）	片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長）
	⑬説明する力「組織を伝えるための会計」	三澤 章（あおもりNPOサポートセンター 常務理事・事務局長）	三澤 章（あおもりNPOサポートセンター 常務理事・事務局長）	三澤 章（あおもりNPOサポートセンター 常務理事・事務局長）
第6回		2012 年8月6 日／アイーナいわて県民情報交流センター（盛岡会場）	2012 年8 月22 日／エル・パーク仙台（仙台会場）	2012 年8 月3 日／南東北総合卸センター（郡山会場）
		2012 年8月7日／あえりあ遠野（遠野会場）	2012 年8 月23 日／登米市米谷公民館（登米会場）	2012 年8 月4 日／コラッセふくしま（福島会場）
	⑭伝える力「組織を伝えるコミュニケーション」	松井 薫（株式会社電通 シニアクリエーティブ・ディレクター）	岡本 達也（株式会社電通 シニア・クリエーティブ・ディレクター）	鈴木 武人（株式会社電通 エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター）
	⑮拡げる力「組織を拡げるコミュニケーション」	松井 薫（株式会社電通 シニアクリエーティブ・ディレクター）	岡本 達也（株式会社電通 シニア・クリエーティブ・ディレクター）	鈴木 武人（株式会社電通 エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター）

資料5：参加メンバー自己診断チェックリスト（2012年7月実施）

●メンバー自己診断チェックリスト　【 岩手 宮城 福島 】 団体名:　　お名前:

	集合研修「NPOを磨く15の力」		業務遂行における個人の課題認識 弱 < 強	組織としての課題認識 弱 < 有	理解度 高く低 A B C	解決への優先順位 （15位まで数字を記入）
基盤編	1.［観る力］ 日本のNPOのカタチ	市民立法の重要性とその成立過程への理解	1 2 3	1 2 3		
		ＮＰＯを取り巻く社会環境の変遷の理解	1 2 3	1 2 3		
		信頼されるNPOについての理解	1 2 3	1 2 3		
	2.［興す力］ 価値を生み出すNPOの姿	団体のミッションと現在の活動の整合性への理解	1 2 3	1 2 3		
		市民活動団体（ＮＰＯ）の基礎知識の理解	1 2 3	1 2 3		
		団体の社会的価値の理解	1 2 3	1 2 3		
事業編	3.［提案する力］ 思いを形に、共感を得る企画	読み手にとってわかりやすい企画書作りのポイントの理解	1 2 3	1 2 3		
		調査や分析などの重要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		実効性が高まる企画書のポイントの理解	1 2 3	1 2 3		
	4.［組立てる力］ 事業計画を単年度と中長期で捉える	単年度計画の意味の理解	1 2 3	1 2 3		
		将来の見通しを持った取り組みの必要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		中長期計画の作成	1 2 3	1 2 3		
	5.［見通す力］ 組織の財源のあり方と資金管理	資金繰り表などの基礎資料の必要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		財源と事業の関係性についての理解（自組織にとって好ましい財源バランスを知る）	1 2 3	1 2 3		
		自組織の活動に合った財源計画づくり	1 2 3	1 2 3		
組織編	6.［持続する力］ パワーを生み出す組織のあり方	自組織の発展段階や取り組むべき課題の把握	1 2 3	1 2 3		
		役員や職員に、その役割を伝え、役割を分担できるようにする	1 2 3	1 2 3		
		役員や職員、会員が納得できる意思決定の方法を考えられる	1 2 3	1 2 3		
	7.［推進する力］ ここで差が出るマネジメント	マネジメントの必要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		マネジメントの種類について理解	1 2 3	1 2 3		
		マネジメントの視点から組織分析を行える	1 2 3	1 2 3		
	8.［育てる力］ 成長する人づくり	ＮＰＯスタッフに求められる力や態度（考える力、つなぐ力、はげます力など）の整理	1 2 3	1 2 3		
		人材育成や機会や方法の理解	1 2 3	1 2 3		
		人材育成の指標と力をつけるための機会の作り方の理解	1 2 3	1 2 3		
	9.［巻き込む力］ 思いを受け止め共感を広げるボランティアコーディネート	ボランティアによるチカラとは何かを理解	1 2 3	1 2 3		
		参加の場を広げる思考性の確立	1 2 3	1 2 3		
		ボランティアプログラムの立案についての理解	1 2 3	1 2 3		
	10.［整える力］ 安心・納得・自己実現の労務管理	ＮＰＯの就労の特性を理解し、採用時には説明できる	1 2 3	1 2 3		
		どのように規定類を整備していけばよいか展望をもてる	1 2 3	1 2 3		
		ＮＰＯらしい就業ルールを考えられる	1 2 3	1 2 3		
	11.［組む力］ 健全で成果が出るパートナーシップ	協働に関する基礎の理解	1 2 3	1 2 3		
		様々な協働事業への対応ができる	1 2 3	1 2 3		
		成果を生み出すポイントを見極めることができる	1 2 3	1 2 3		
	12.［振り返る力］ やれば役立つラクラク評価	評価の基本的事項や必要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		評価の種類への理解	1 2 3	1 2 3		
		自組織に必要な評価指標を作成できる	1 2 3	1 2 3		
	13.［説明する力］ 組織を伝えるたえの会計	財務諸表を読み解くことができる	1 2 3	1 2 3		
		アカウンタビリティの重要性の理解	1 2 3	1 2 3		
		会計の重要性の理解	1 2 3	1 2 3		
コミュニケーション編	14.［伝える力］ 組織を伝えるコミュニケーション	組織のブランディングの考え方についての理解	1 2 3	1 2 3		
		広報をする上での「基礎的な考え方」の理解	1 2 3	1 2 3		
		自組織の情報発信の課題の理解	1 2 3	1 2 3		
	15.［拡げる力］ 組織を拡げるコミュニケーション	情報発信等の担当や役割分担ができる	1 2 3	1 2 3		
		フロー情報とストック情報の理解	1 2 3	1 2 3		
		チラシやWEBサイトなどの広報物づくりの「実践的なノウハウ」の習得	1 2 3	1 2 3		

●市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト●

資料6：マッチングのためのメンターアンケート（2012年7月実施）

●メンターアンケート

お名前：

「NPOを磨く15の力」の視点から、事務局が作成するメンターマッチングで使用します

	集合研修「NPOを磨く15の力」	以下の項目は、メンバーに 1．メンバー自身が課題だと感じていること 2．組織の課題だと感じていること 3．理解度 4．解決のための優先順位について 尋ねている文言と同一にしています。	メンタリングの項目として A B C 得意 ＜ 不得手
基盤編	1.［観る力］ 日本のNPOのカタチ	市民立法の重要性とその成立過程への理解	
		ＮＰＯを取り巻く社会環境の変遷の理解	
		信頼されるNPOについての理解	
	2.［興す力］ 価値を生み出すNPOの姿	団体のミッションと現在の活動の整合性への理解	
		市民活動団体（ＮＰＯ）の基礎知識の理解	
		団体の社会的価値の理解	
事業編	3.［提案する力］ 思いを形に、共感を得る企画	読み手にとってわかりやすい企画書作りのポイントの理解	
		調査や分析などの重要性の理解	
		実効性が高まる企画書のポイントの理解	
	4.［組立てる力］ 事業計画を単年度と中長期で捉える	単年度計画の意味の理解	
		将来の見通しを持った取り組みの必要性の理解	
		中長期計画の作成	
	5.［見通す力］ 組織の財源のあり方と資金管理	資金繰り表などの基礎資料の必要性の理解	
		財源と事業の関係性についての理解（自組織にとって好ましい財源バランスを知	
		自組織の活動に合った財源計画づくり	
組織編	6.［持続する力］ パワーを生み出す組織のあり方	自組織の発展段階や取り組むべき課題の把握	
		役員や職員に、その役割を伝え、役割を分担できるようにする	
		役員や職員、会員が納得できる意思決定の方法を考えられる	
	7.［推進する力］ ここで差が出るマネジメント	マネジメントの必要性の理解	
		マネジメントの種類について理解	
		マネジメントの視点から組織分析を行える	
	8.［育てる力］ 成長する人づくり	ＮＰＯスタッフに求められる力や態度（考える力、つなぐ力、はげます力など）の	
		人材育成や機会や方法の理解	
		人材育成の指標と力をつけるための機会の作り方の理解	
	9.［巻き込む力］ 思いを受け止め共感を広げるボランティアコーディネート	ボランティアによるチカラとは何かを理解	
		参加の場を広げる思考性の確立	
		ボランティアプログラムの立案についての理解	
	10.［整える力］ 安心・納得・自己実現の労務管理	ＮＰＯの就労の特性を理解し、採用時には説明できる	
		どのように規定類を整備していけばよいか展望をもてる	
		ＮＰＯらしい就業ルールを考えられる	
	11.［組む力］ 健全で成果が出るパートナーシップ	協働に関する基礎の理解	
		様々な協働事業への対応ができる	
		成果を生み出すポイントを見極めることができる	
	12.［振り返る力］ やれば役立つラクラク評価	評価の基本的事項や必要性の理解	
		評価の種類への理解	
		自組織に必要な評価指標を作成できる	
	13.［説明する力］ 組織を伝えるたえの会計	財務諸表を読み解くことができる	
		アカウンタビリティの重要性の理解	
		会計の重要性の理解	
コミュニケーション編	14.［伝える力］ 組織を伝えるコミュニケーション	組織のブランディングの考え方についての理解	
		広報をする上での「基礎的な考え方」の理解	
		自組織の情報発信の課題の理解	
	15.［拡げる力］ 組織を拡げるコミュニケーション	情報発信等の担当や役割分担ができる	
		フロー情報とストック情報の理解	
		チラシやWEBサイトなどの広報物づくりの「実践的なノウハウ」の習得	

資料7：メンターサポートについてのQ&A（メンターガイドライン）

2012 年 9 月 1 日

市民活動団体（NPO）育成強化プロジェクト

メンターサポートについての Q&A（メンターガイドライン）

＊第 1 回メンター会議（4/26）で検討した内容をふまえ、事務局が作成しました。

＊第 2 回メンター会議（9/2）の議論を受けて一部修正しました。

▶ Q１．このプロジェクトの目標は何ですか？

被災地域が復興への長い道のりをたどるには、言うまでもなく一過性の物質的な支援では不十分です。外部からの支援は多く入っているものの、それらは、被災地域で、被災地域のために、被災地域の人たちや市民活動団体（NPO）が活かしてこそ有益な支援となります。しかしながら現状は、芽はたくさん出ているものの、被災地域の NPO 自身も被災しており大きく力を落としています。また、もともと行政が強い地域性もあり、行政や企業と対等に活動を推進することができる NPO がさらに増えるということが重要です。今まさに、継続的かつ多面的な支援を被災された地域の中からつくりあげるための、地域の NPO のキャパシティビルディングと NPO リーダー育成が急務となっています。 そこで、被災地域の人材育成に取り組む事業をおこないます。

▶ Q２．メンターサポートとはどのようなものですか？

先達が経験の浅い人を指導する方法です。概念としてはコーチングやカウンセリング、ティーチングなどの技法も含まれます。単なる短期の教育ではなく、精神的、人間的な成長を支援することが大切で、将来的な目標を定め、それに向かって前向きになるように寄り添い、励まし、支援することが重視されます。

▶ Q３．メンバーとはどのように接すればいいですか？

密度高くコミュニケーションを取って、信頼関係を構築することが大切です。自組織の新しいスタッフが 1 人増えたと思って接していただければ幸いです。本事業ではコンサルティングではなくメンターサポートを行うこととしています。「何かを与えないといけない」というよりは、傾聴を重視し、メンバーの思いや目標に柔軟な姿勢で積極的に寄り添って、時間がかかったとしてもメンバーが自立的にステップアップすることを支えていただければと思います。

▶ Q４．メンバーとはどれくらいやり取りをする必要がありますか？

メールであれば週に 1 回程度、電話もしくは Skype などでの話は月に 1 回程度を目安にしてください。これらの経過内容はメンバーカルテに記録し、月に 1 回現地事務局に提出してください。

またメンター期間中 3 回は現地に訪問をしていただくことになります。県内メンバーが一堂に会するタイミングもありますので、訪問の日程は現地事務局と相談してください。現地訪問の際は受け持ちメンバーが集まってのグループメンタリングを行っていただくことも可能ですが、その場合も個別に話を聞く機会も合わせて設けてください。

メンバーに配布している「市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト活用ガイド」には「積極的に

メンターに質問をしてください」と記載しています。メンバーから連絡があった場合は、最大限誠意を持って対応してください。

▶ Q５．メンバーによって会う頻度に差が出てもいいですか？

メンバーがメンターの所属団体の近くに来た際に立ち寄られるなど、団体の意欲で差が出る分には構いません。ただし、メンターからは各団体を平等に扱ってください。

▶ Q６．メンターサポートはメンバーの団体事務所で行うべきですか？

できる限り初回は団体事務所に訪問をしてください。できるだけ早いタイミングでメンバーの団体事務所に訪問し、代表の方などに挨拶をしていただくことや、団体についての理解を深めていただくことは重要だと思います。その後はメンバーとの話し合いによって、適切な場所を決めてください。

▶ Q７．現地での移動手段はどのようにすればいいですか？

公共交通機関、レンタカー、現地事務局による送迎、メンバーによる送迎などが考えられますが、現地入りに際しては、あらかじめ現地事務局にご相談ください。

▶ Q８．メンバーの所属団体の代表者とはどの程度コミュニケーションすべきですか？

団体の代表者がメンバーを組織内でどう位置づけているのか、どのように育ってほしいのかを把握するために早いタイミングでコミュニケーションをしていただくことは重要です。ただし、団体とのコンタクトは原則としてメンバーを通じてください。ケースにもよりますがメンバーの自覚と責任を促す意味でもメンバーの頭を超えて団体の代表者と直接コンタクトをすることは極力避けてください。

▶ Q９．メンバー以外の団体の人とはどのように接すればいいですか？

ケースにもよりますが原則としてメンバー以外の人からの相談はこのプロジェクトの対象外です。

▶ Q１０.メンバーとの関係性がどうしてもうまく構築できない場合はどのようにすればいいですか？

まずは現地事務局にご相談ください。状況に応じてメンターの交代も行うことも考えられますが、他のメンターの受け持ちとの兼ね合いがあるため、できるだけ交代は避けたいと考えています。

▶ Q１１．他のメンターとはどれくらい情報共有をしていいですか？

メンバーからの相談内容については通常の相談対応と同様に守秘義務がありますので、他者に漏らさないようにしてください。ご自身で対応しきれない課題や他のメンターの意見を求めたい場合は、現地事務局もしくは全国事務局にご相談いただくか、ケースが特定されないように一般化した上でメンターメーリングリストなどにご質問ください。

▶ Q１２．専門的な相談や対応できない相談について、他の人を紹介してもいいですか？

メンバーが「課題を解決してくれる人」を探すことを支援するのは有効だと考えます。その上で、予め事務局にご相談いただいた上で、専門家や地元の NPO 支援センターなど他の人を紹介していただいても結構です。ただし、あくまでもメンターの責任下において行っていただき、相談の場面や事後のフォ

ローなどをお願いします。なお、専門家の対応に費用が発生する場合は、必ず事前に現地事務局にご相談ください。

▶ **Q１３.メンターサポートの期間中に団体の方向性やメンバーの団体内での位置づけが変わった時はどうすればいいですか？**

現地事務局にご相談ください。

▶ **Q１４．メンバーは集合研修「NPO を磨く 15 の力」でどのような内容を受講したのですか？**

以下にレジュメを掲載していますのでご参照ください。（無断転載はご遠慮ください）
http://sdrv.ms/KEGILn
また、各コマの様子を撮影した DVD も用意していますので、必要であれば現地事務局までご連絡ください。

▶ **Q１５．メンター謝金や交通費の精算はどのように行えばいいですか？**

別途お送りする請求書フォーマットに必要事項を記入いただき、毎月 20 日までにお送りください。原則として当月月末にお支払いします。請求書がない場合はお支払いできない場合がありますのでご注意ください。

▶ **Q１６．メンターサポートの内容はどのように記録しますか？**

別途お送りするフォーマット（Word）にご記入いただき、現地事務局にメールでお送りください。お手数ではありますが、サポートが発生した都度ご記入・ご提出いただけるようお願いします。

資料8：メンターサポート記録シート

NPO 育成・強化プロジェクト

第 1 回　メンタリングシート	
日時：　2012 年　　9月　　1日 （土）　　：　　～　　：	
団体名：	連絡先：
メンバー名：	携帯電話：
担当メンター名：	
□ 組織の課題（優先順位の高いものについて）	
□ メンバー自身の課題	

□ その他

□ 今後のメンタリング方法 （やり方、スケジュール感など）

□ 次回の予定

・日時:　　月　　日（　　）

・方法:　□メール　□電話　□対面　□その他（　　）

・備考

■事務局記入欄

対応日時	相談の概要や経過情報	対応やアドバイス内容、等
○／○ （○）	□電話　□メール　□対面	□電話　□メール　□対面
○○:○○ ～ ○○:○○ （　分）	・	・
対応日時	**相談の概要や経過情報**	**対応やアドバイス内容、等**
／ （　）	□電話　□メール　□対面	□電話　□メール　□対面
: ～ : （　分）	・	・

資料9：参加メンバーへのメンターサポートアンケート（2013年2月実施）

■以下、ご記入お願いいたします

メンバー名：	
メンター名：	
9 月にメンターと 話し合った メンターサポートに おける目標	
メンターとの コミュニケーション方法	直接面談=今まで　回　・電話　回/月　　・メール　回/月 メンターと充分なコミュニケーションはとれていますか？ A　充分にとれている　B　まあまあ取れている　C　あまり取れていない D　取れていない 上記を選んだ理由：
メンターサポートプログラム実施において、この半年間で、ご自身が課題だと感じていること。 箇条書きでご記入ください。	
メンターへの提案/要望をお書きください。	
事務局への提案/要望をお書きください。	
7 月末までの半年間 で「めざしたい目標」を お書きください。	
その他、あなた自身が感じていることなど自由にお書きください。	

資料10：メンターアンケート（2013年2月実施）

■メンターサポートを実施しておられるメンバーごとに、ご記入ください。

メンバー名 団 体 名		役職	
9 月当初に話し合った目標			
これまでの、メンバーとのコミュニケーション方法	□直接面談 （1 回目　月、 2 回目　月、 3 回目　月） □メール（月　回程度）　□電話（月　回程度） □その他（		
メンターサポートにおいて、課題だと感じていることを箇条書きでご記入ください。			
メンターとして、今後のサポートの方針と目標をご記入ください。			

資料11：参加メンバー自己診断チェックリスト（2013年6月実施）

●メンバー自己診断チェックリスト

【 福島 】 団体名：　　名前：

1．集合研修「NPOを磨く15の力」を受講される前から、2013年6月まで、市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクトのメンターサポートや実践応援プログラムを通じて、
　理解度の増幅を10段階評価で自己診断してください。
2．2012年9月に一度自己診断いただきましたが、その自己診断からの理解の深まりについて、3段階でA、B、Cをご記入ください。
　理解度＝A 変わらず、B 深まった（高まった）、C とても深まった（高まった）

			1．10段階評価		2．3段階評価
	15の力	理解度／視点／行為	2012年6月時点での理解 1～10	2013年7月時点での理解 1～10	9月以降の理解度 A　B　C
例	2[興す力] 価値を生み出すNPOの姿	NPOの基礎知識の理解	3	7	B
基礎編	1．[観る力] 日本のNPOのカタチ	市民立法の重要性とその成立過程への理解			
		ＮＰＯを取り巻く社会環境の変遷の理解			
		信頼されるNPOについての理解			
	2．[興す力] 価値を生み出すNPOの姿	団体のミッションと現在の活動の整合性への理解			
		市民活動団体（ＮＰＯ）の基礎知識の理解			
		団体の社会的価値の理解			
事業編	3．[提案する力] 思いを形に、共感を得る企画	読み手にとってわかりやすい企画書作りのポイントの理解			
		調査や分析などの重要性の理解			
		実効性が高まる企画書のポイントの理解			
	4．[組立てる力] 事業計画を単年度と中長期で捉える	単年度計画の意味の理解			
		将来の見通しを持った取り組みの必要性の理解			
		中長期計画の作成			
	5．[見通す力] 組織の財源のあり方と資金管理	資金繰り表などの基礎資料の必要性の理解			
		財源と事業の関係性についての理解（自組織にとって好ましい財源バランスを知る）			
		自組織の活動に合った財源計画づくり			
組織編	6．[持続する力] パワーを生み出す組織のあり方	自組織の発展段階や取り組むべき課題の把握			
		役員や職員に、その役割を伝え、役割を分担できるようにする			
		役員や職員、会員が納得できる意思決定の方法を考えられる			
	7．[推進する力] ここで差が出るマネジメント	マネジメントの必要性の理解			
		マネジメントの種類について理解			
		マネジメントの視点から組織分析を行える			
	8．[育てる力] 成長する人づくり	ＮＰＯスタッフに求められる力や態度（考える力、つなぐ力、はげます力など）の整理			
		人材育成や機会や方法の理解			
		人材育成の指標と力をつけるための機会の作り方の理解			
	9．[巻き込む力] 思いを受け止め共感を広げるボランティアコーディネート	ボランティアによるチカラとは何かを理解			
		参加の場を広げる思考性の確立			
		ボランティアプログラムの立案についての理解			
	10．[整える力] 安心・納得・自己実現の労務管理	ＮＰＯの就労の特性を理解し、採用時には説明できる			
		どのように規定類を整備していけばよいか展望をもてる			
		ＮＰＯらしい就業ルールを考えられる			
	11．[組む力] 健全で成果が出るパートナーシップ	協働に関する基礎の理解			
		様々な協働事業への対応ができる			
		成果を生み出すポイントを見極めることができる			
	12．[振り返る力] やれば役立つラクラク評価	評価の基本的事項や必要性の理解			
		評価の種類への理解			
		自組織に必要な評価指標を作成できる			
	13．[説明する力] 組織を伝えるたえの会計	財務諸表を読み解くことができる			
		アカウンタビリティの重要性の理解			
		会計の重要性の理解			
コミュニケーション編	14．[伝える力] 組織を伝えるコミュニケーション	組織のブランディングの考え方についての理解			
		広報をする上での「基礎的な考え方」の理解			
		自組織の情報発信の課題の理解			
	15．[拡げる力] 組織を拡げるコミュニケーション	情報発信等の担当や役割分担ができる			
		フロー情報とストック情報の理解			
		チラシやWEBサイトなどの広報物づくりの「実践的なノウハウ」の習得			

資料12:参加メンバー成果可視化シート(2013年6月実施)

●メンバー用　　成果可視化シート

記入日　　年　　月　　日

団体名(ふりがな)		設立年月日：
メンバー名	ふりがな：	役職名：
	氏名：	入職年月日：

1．2012年6月からの役職名に変化があればお書きください	□変化なし □変化あり（具体的な役職名と年月の変遷をご記入願います）
2．主な担当業務は、2012年6月以降に変化はありましたか？	□変化なし □変化あり
3．（組織の課題） ＮＰＯ育成・強化ＰＪに参加することで、当初課題だったが、改善・解決したとあなたが考えることや、その課題解決に向けて取り組んだことを箇条書きでご記入ください。	□基盤整備コースへの参加（□あり　　□なし） □インターンシップコースへの参加（□あり　　□なし）
4．（ご自身の成長） ＮＰＯ育成・強化ＰＪに参加するで、成長した、解決したご自身の課題があれば、箇条書きでご記入ください。	
5．メンターに対する評価 あえて、課題点をご記入ください。	（ここは、合宿当日共有しません）
6．全国・現地事務局に対する評価 あえて、課題点をご記入ください	（ここは、合宿当日共有しません）

※記入欄は自由に増やしていただいて構いません。

●団体用　　成果可視化シート

記入日　　年　　月　　日

団体名（ふりがな）		
ご記入者名	ふりがな：	役職名：
	氏名：	

メンバーの成長として、エントリー時点(2012 年 6 月)で期待しておられたこと。	
組織内において、重要な変化がありましたでしょうか 例．全委託事業が切れた等	□変化なし □変化あり（お差し支えのない範囲で、具体的に箇条書きでご記入ください）
（メンバーの成長） ＮＰＯ育成・強化ＰＪに参加することによって、送り出してくださったメンバーの具体的な変化や成長があれば、箇条書きでご記入ください。	
（組織の課題解決） メンバーがＮＰＯ育成・強化ＰＪに参加することによって、前進、解決したと考えることができる組織の変化がございましたら、箇条書きでご記入ください。	□基盤整備コースへの参加（□あり　　□なし） □インターンシップコースへの参加（□あり　　□なし）
メンターに対する評価 あえて、課題点をご記入ください。	（ここは、合宿当日共有しません）
全国・現地事務局に対する評価 あえて、課題点をご記入ください	（ここは、合宿当日共有しません）

※記入欄は自由に増やしていただいて構いません。

資料13：メンター成果可視化シート（2013年6月実施）

メンター会議　情報交換用　事前記入シート
メンターサポート９月から６月までの１０か月間の「成果可視化シート」

担当県：　福島県

お名前：

※途中でメンターサポートが終了になったメンバーは、終了時点までででご記入ください。
その後のやり取りがおありになられれば、追記いただけると幸いです。

■設問１：　ご自身の地域の今後の NPO 支援のメニューとして、このプロジェクトは役にたちそうでしょうか？（役立てる点、改善の余地のある点、など箇条書きでお書きください）

■設問２：他のメンターと共有したいこと、議論したいことをご記入ください。

■メンターサポートを実施しておられるメンバーごとに、ご記入ください。

メンバー名 団 体 名		**役職**	
現在の 7 月末までの目標			
これまでの、メンバーとのコミュニケーション方法	**□直接面談 （1 回目　 月、 2 回目　 月、 3 回目　 月） ■今後、あと何回訪問されますか？（ ） □メール（月　 回程度）　 □電話（月　 回程度） □その他（**		
メンターサポートにおいて、9 月当初からの成果として感じておられるメンバーの成長を箇条書きでご記入ください。			
組織にも成果として感じておられる点があれば箇条書きでご記入ください。			
メンターとして、今後のメンバーの成長に必要なポイントをご記入ください。			

実践応援プログラム　応募要項

■．実践応援プログラムの趣旨

市民活動団体（NPO）育成・強化プログラムに、組織の了解を得て、参加しているメンバー*１に、組織基盤強化のために資金助成を行います。組織基盤強化のための資金助成には、A.基盤整備コースとＢ．インターンシップコースがあり、メンバーは、期間中どちらのコースも申請する権利を有しています。

A．基盤整備コースについて

１）趣　　旨：集合研修「NPO を磨く 15 の力」を基礎として、組織の基盤強化のために、課題となっている事柄に対して、資金を助成します。

２）助成金額：１件あたり 50 万円以内

３）応募方法：メンターサポート期間中に、メンターと相談しながら策定します。メンバー、メンター、メンバーが所属する組織、３者の合意を得て応募します。応募用紙を作成するのはメンバーです。

４）応募締切：第１回　2012 年 11 月１日（必着）、　第２回　2013 年２月１日（必着）

５）助成期間：2013 年６月末まで。

６）選　　考：各回の応募締切日から２週間以内に全国事務局が、提現地事務局を通して結果を通知します。

７）応募費用に含まれるもの：

①会場費、②謝金、③移動交通費、④宿泊費、⑤会議費、⑥消耗品費、⑦通信費など

（人件費、固定費は含まれません。パソコンなど什器備品は不可。

労務、会計、ＨＰ作成ソフトなどは可。）

既に他の助成機関からの助成を受けている内容と重複しているものは申請できません。

８）助成の手続きについて：

助成決定後、応募団体と日本ＮＰＯセンターは「覚書」を取り交わし、所定の手続きを経て助成を開始します。助成手続完了後、１ か月以内に、団体が指定する振込先に、申請金額の半額を支払います。

申請した期間が終了したら、２週間以内に、「完了レポート」と「領収書」を提出してください。残金を清算します。（申請額を超えては支払いません。申請額に満たない場合は、領収書分のみ支払います。）領収書の宛先は貴団体名で構いません。領収書はコピーで構いません。

◆想定しているテーマ

・組織力をつけるために、理事・スタッフ間で中長期計画を作成するための話し合いを行う。

・団体の広報の手段を増やすために、ホームページデザインを切り替えたい。

・会員管理を行うためのデータベースを構築したい。

・ボランティアに継続して参加し続けてもらうための、コーディネート力をつけたい。

・会員拡大のために作成したパンフレットが成果のでるパンフレットになっているか調査をする。

・会計ソフトを導入し、事務局で研修会を行いたい。など

B．インターンシップコースについて

１）趣　　旨：組織の基盤強化のための課題を解決するために、モデルとしたい組織にメンバー自身が参画し、現場での学びを得ることに対して、資金的にサポートします。

２）助成金額：１件あたり 50 万円以内

３）応募方法：メンターサポート期間中に、メンターと相談しながら策定します。メンバー、メンター、メンバーが所属する組織、３者の合意を得て申請します。応募用紙を作成するのはメンバーです。

４）応募締切：第１回　2012 年 12 月１日　（必着）

第２回　2013 年　３月１日　（必着）

５）インターン期間：

第１回実施時期：2013 年１月～6 月　第２回実施時期：2013 年４月～6 月

期間中の実働５日以上 20 日以内（半日はカウントしません）

６）インターンシップ先の選定方法

・原則として、「全国」の参考になる団体を選定し、県外の団体を選定してください。（インターン期間中は、夜は自団体に戻って仕事をするなどがなくきっちり学ぶため）

・インターン受け入れ団体に「受け入れ団体了解書」を記入してもらってください。

・既存の研修会への参加は認めません。

７）選　　考：各回の応募締切日から２週間以内に全国事務局が、提現地事務局を通して結果を通知します。

8）対象となる経費

①1 回分の往復交通費

②インターン活動中の移動交通費（宿泊先からインターン先の往復含む）

③宿泊費　1 泊 6,000 円程度（都心部の場合は要相談）

④インターン先への謝金（実働 1 日 1 万円）

⑤その他（インターン活動に必要な経費）

9）インターンシップ期間中に行うこと

基本的には、応募申請時の目的とスケジュールに沿って、インターン先の業務に参画します。完了レポートとは別途、日報もご記入いただきます。

10）清算方法

助成決定後、応募団体と日本ＮＰＯセンターは「覚書」を取り交わし、所定の手続きを経て助成を開始します。助成手続完了後、1 か月以内に、団体が指定する振込先に、申請金額の半額を支払います。

インターン期間が終了したら、2 週間以内に、「日報」と「完了レポート」と「領収書」を提出してください。残金を清算します。（申請額を超えては支払いません。申請額に満たない場合は、領収書分のみ支払います。）領収書の宛先は貴団体名で構いません。領収書はコピーで構いません。

■お問い合わせ・応募先

各現地事務局

«岩手メンバー応募先»

特定非営利活動法人いわて連携復興センター北上サテライトオフィス

岩手県北上市大通り 1-8-23　〒024-0016

TEL:0197-72-6200　　FAX:0197-72-6201

担当：葛巻 080-4598-8267　　kuzumaki@ifc.jp

«宮城・福島メンバー応募先»

日本ＮＰＯセンターＮＰＯ育成・強化ＰＪ事務局

宮城県仙台市青葉区本町 2-10-33 第２日本オフィスビル　８Ｆ　〒980-0014

宮城担当：青木（080-4598-8268　yukari022@gmail.com）、

遠藤（080-4598-8297　chie120@nifty.com）

福島担当：内山（080-4598-8296　tmk.uchiyama@gmail.com）、

遠藤（080-4598-8297　chie120@nifty.com）

■このプロジェクト全体に関する問い合わせ先

特定非営利活動法人日本 NPO センター

東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 245　〒100-0004

TEL:03-3510-0855　FAX:03-3510-0856

担当：新田（enitta@jnpoc.ne.jp）,吉田（kyoshida@jnpoc.ne.jp）

「ＮＰＯ育成・強化プロジェクト」事業検証のためのアンケート

※このアンケートの集計結果は本プロジェクトの検証作業のために使用し、統計的に処理いたします。
また、ここで知り得た情報等は、他の目的には一切使用いたしません。

【メンバーの方に質問いたします】

A) 貴団体について、教えてください（2013 年 10 月 30 日現在）

団体名	
団体所在地	□岩手県　□宮城県　□福島県
団体設立年	西暦　　年　（法人格取得年：　　年）
団体法人格	□認定特定非営利活動法人　□特定非営利活動法人　□一般社団法人 □公益社団法人　□公益財団法人　□任意団体　□その他（　　）
メンバーの役職	□代表　□理事（代表以外）　□事務局長　□部門長　□職員　□その他（　　）
メンバーの NPO 歴	□2 年未満　□3～5 年　□6～10 年　□10 年以上
活動分野	※該当するものを選んでください（複数にわたる場合、中心となっている活動を選んでください）。 □保健・医療　□社会教育　□まちづくり　□学術、文化、芸術又はスポーツの振興 □環境保全　□災害救援　□高齢者支援　□障がい者支援　□子ども支援 □国際協力　□中間支援　□その他（　　）

※以下、該当する回答番号に○印をお付けください。

B) プログラム開始時について、お聞きします

1. 参加時（2012 年 4 月時点。現地事務局から説明を受け）、本プロジェクトの趣旨について理解できていましたか？
   ① よく理解できていた
   ② だいたい趣旨について理解していた
   ③ 十分に理解できていなかった
   ④ 理解していなかった

2. １で③または④を選んだ方にお聞きします。その後、趣旨は理解できましたか？
   その場合、プロジェクト開始後どのタイミングで理解できたのか教えてください。
   ① 集合研修「15 の力」の講座の途中から
   ② 集合研修「15 の力」講座終了時、2012 年 9 月 1－2 日の合宿に参加してから
   ③ メンターサポートがはじまってから（　　年　　月ぐらいから）
   ④ 2 回目の合宿（7 月末）に参加してから
   ⑤ いまだによく理解できていない

3. あなたがこのプロジェクトのメンバーとして参加することになった経緯について教えてください。
   ① 自分から参加を希望し、代表者に了解を得た。
   ② 団体の代表者から参加するように指名された。
   ③ 団体内で話し合い、参加するスタッフを決めた。
   ④ その他（　　）

4. あなたがこのプロジェクトに参加しようと思ったのは、どのような理由からですか？具体的に教えてください。

C) プロジェクト全体について、お聞きします

1. 集合研修「15 の力」の講座 → メンターサポートプログラム→メンターサポートプログラム実施と並行して、実践応援プログラムとしての基盤整備コースとインターンシップコース、途中、途中の追加研修 、という一連の流れで一つプロジェクトとして実施していました。この形式についてご意見をお聞かせください。
   ① 「一連の流れ」の意義を感じた
   ② 集合研修、メンターサポートプログラム、実践（助成）応援プログラム、追加研修は別々に行われたほうがよかった
   ③ 「一連の流れ」の意義は感じなかった
   ④ その他（　　）

2. １で選んだ回答は、どのような理由からですか。

3. 本プロジェクトは、2012 年 5 月～2013 年 7 月にわたって実施しました。期間についていかがでしたか？
   ① 長かった
   ② 適当だった
   ③ 短かった

4. ３.で選んだ理由を聞かせてください。
   ① しっかりと学ぶことができた
   ② 業務に支障をきたした
   ③ もっとじっくりやってほしかった
   ④ その他（　　）

D) 集合研修「NPO を磨く 15 の力」（以下、「15 のカ」）について、お聞きします

集合研修「NPO を磨く 15 の力」	8．育てる力：成長する人づくり
1．観る力：日本の NPO のカタチ	9．巻き込む力：ボランティアの特性をつかむ
2．興す力：価値を生み出す NPO の姿	10．整える力：スタッフがいきいきと活動できる組織を育てるには
3．組立てる力：事業計画を単年度と中長期で捉える	11．組む力：健全で成果が出るパートナーシップ
4．提案する力：思いを形に、共感を得る企画	12．振り返る力：やれば役立つラクラク評価
5．見通す力：組織の財源のあり方の資金管理	13．説明する力：組織を伝えるための会計
6．持続する力：パワーを生み出す組織のあり方	14/15 伝える力・拡げる力：
7．推進する力：ここで差が出るマネジメント	組織を伝えるコミュニケーション・組織を拡げるコミュニケーション

1. 頻度について：2012 年 6 月から 8 月にかけて、毎月 2 回のペースで実施しました。
   この回数、間隔はいかがでしたか？また、その理由を聞かせてください。
   ① 頻繁すぎた
   ② 適当だった
   ③ 連続した日程でまとまっていたほうがよかった
   ④ その他（ ）

   〔理由： 〕

2. 開催場所について：各回 2 カ所（地域を変えて）での開催をしましたがいかがでしたか？
   ① 2 カ所あったので調整をしやすかった
   ② 毎回会場が変わるので不便だった
   ③ 2 ケ所にわけて開催する必要はなかった
   ④ その他（ ）

3. 内容について：15 のテーマ設定はいかがでしたか？
   ① 組織運営に関係するテーマを網羅的に学ぶことができてよかった
   ② 自分にとって必要なテーマだけを選べるとよかった
   ③ もっと別のテーマを入れてほしかった（例： ）
   ④ その他（ ）

4. 15 のテーマの中で、あなたにとって役にたったと思う講座上位 3 講座を（上の表にある番号で）教えてください。
   1 位（ ）、 2 位（ ）、 3 位（ ）

5. 講座終了後、組織内でそこで得た知識・情報を組織運営等に活かしましたか？
   ① 特になし
   ② 活かした（内容共有など）
   ③ 大いに活かした（新たなしくみを導入したなど）

6. ②と③を選んだ方にお聞きします。具体的内容・方法を教えてください。

7. 「15 のカ」の講座内容を 1 冊のテキストにして配布（7 月合宿時）しましたが、このテキストについて聞かせてください。
   ① 団体内で活用できそうだ／活用した
   （どのように： ）
   ② 自分の復習用には使えるが、団体内での共有は難しい
   （理由： ）
   ③ その他（ ）

E) メンターサポートプログラムついて、お聞きします

1. メンターサポートプログラムの趣旨は当初（9 月の合宿時）理解できていましたか？
   ① よく理解していた
   ② だいたい理解していた
   ③ 徐々に理解した
   ④ あまり理解できなかった
   ⑤ 最後まで理解できなかった

2. 1 で③、④を選んだ方にお聞きします。どの時点、どのようなきっかけで理解できましたか？
   ① 実践応援プログラムの申請についてやりとりを始めてから
   ② 組織体制、メンバーの役職などが変わったとき
   ③ 組織運営上の悩みが発生したとき
   ④ 2013 年 2 月のメンターサポートに関するアンケートを記入にするにあたり、改めて考えたとき
   ⑤ 実践応援プログラムを実施してみて
   ⑥ 2013 年 7 月の合宿に参加して
   ⑦ その他（ ）

3. 事務局でマッチングをしましたが、その方法について意見をお聞かせください（複数回答可）
   ① 事務局で決めたことで特に問題はなかった
   ② メンターを自分で選びたかった
   ③ 希望を聞いてほしかった
   ④ 途中でメンターを変えるなどの選択肢がほしかった
   ⑤ その他（　　）

4. メンターサポート期間中
   ① メンターとのコミュニケーションはスムーズに行きましたか？
   (ア) とてもスムーズだった
   (イ) まあまあできた
   (ウ) やりとりは少なかった
   (エ) ほとんどやりとりをしなかった

   ② ①で（ウ）と（エ）を選んだ方にお聞きします。その理由・原因は何だと思いますか？（複数回答可）
   (ア) メンターが忙しいから
   (イ) メンバー（自分）が忙しいから
   (ウ) メンターもメンバーも互いに忙しかったから
   (エ) やりとりを頻繁にする必要性を感じなかったから
   (オ) メンターとコミュニケーションがうまくとれなかったから
   (カ) その他（　　）

   ③ 現地事務局のメンターサポートとの関わり方について（複数回答可）
   (ア) もっと積極的な関わりを期待していた
   (イ) 事務局の役割（メンターとの違い）がわからなかった
   (ウ) メンターとは別の相談できる関係性だった
   (エ) 現地事務局は必要なかった
   (オ) その他（　　）

5. メンターサポートの意義について、はい・いいえ、でお答えください。またその理由を教えてください。
   ① アドバイザー派遣とは違う良さがあった　　はい　　いいえ
   その理由（　　）
   ② メンターが同じ地域の方ではないことがよかった　　はい　　いいえ
   その理由（　　）

6. メンターサポート期間終了後
   ① メンターサポートプログラムは振り返ってみていかがでしたか？（複数回答可）
   (ア) 十分に活用した
   (イ) もっと活用すればよかった
   (ウ) 期間が長かったため、業務に支障があった
   (エ) 組織の中で、メンバーひとりがサポートを受けることで、他のスタッフとの関係性などに影響があった
   (オ) その他（　　）

   ② メンターとの関係性
   (ア) 期間終了後も、相談できる存在となっている
   (イ) 期間終了後も、定期的に連絡をとり情報交換をしている
   (ウ) 期間終了後も、不定期ではあるが連絡をとり情報交換をしている
   (エ) 期間終了後、やりとりはない

7. メンターサポートプログラムに対して、どのような点が効果的であったか（なかったか）ご意見・ご感想をお聞かせください。

F) 実践応援プログラム（基盤整備コース、インターンシップコース）について、お聞きします

1. 応募されましたか？
   ① 基盤整備コースに応募した（採択の可否は問わず）　→３へ
   ② インターンシップコースに応募した　（採択の可否は問わず）→３へ
   ③ どちらにも応募しなかった　→２へ

2. 応募しなかった方にお聞きします。その理由をお聞かせください。（複数回答可）
   ① 実践応援プログラムについての説明が不十分だった
   ② 実践応援プログラムの条件等が合わなかった
   ③ 実践応援プログラムの必要性を感じなかった
   ④ 他の業務などが忙しく、対応できなかった
   ⑤ その他（　　）

3. 応募された方にお聞きします。申請書作成にあたって、メンターとのやりとりはどの程度ありましたか？

① 実施内容を決めるところから、細かく相談に乗ってもらった
② 申請書の内容・書き方について、相談にのってもらった
③ 申請書ができてから、コメントをもらった
④ ほとんどやりとりはなかった

4. 実践してみて、どのような効果がありましたか？一番効果があったと感じていることをお聞かせください。

① メンバー自身にとって

② 組織にとって

G) 事務局についてお伺いします

1．現地事務局（岩手、宮城、福島）はあなたにとってどのような存在でしたか？（複数回答可）

① よき相談相手であった
② 適切な事務フォローをしてもらった
③ 現地事務局となかなかコミュニケーションがうまくとれなかった
④ 特に問題はなかった
⑤ その他、具体的に（ ）

2．全国事務局（東京）はあなたにとってどのような存在でしたか？（複数回答可）

① よき相談相手であった
② 適切な事務フォローをしてもらった
③ 全国事務局となかなかコミュニケーションがうまくとれなかった
④ 特に問題はなかった
⑤ その他、具体的に（ ）

H) このプロジェクトに参加したことによって、得たことは何ですか？（複数回答可）

1. 県内のネットワーク
2. ３県内のネットワーク
3. 共感・相談できる仲間
4. 他団体の活動に対する理解
5. 他地域の情報
6. NPO 組織運営の基礎知識
7. その他（ ）

I) このプロジェクトに参加したことによって、いちばん変わった・変化があったことは何だと思いますか？

1. メンバー自身にとって

2. 組織にとって

J) このプロジェクトをきっかけに生まれたネットワーク、連携、活動などがありましたら教えてください。

K) 今後、このプロジェクトでの経験をどのように活かしていきたいと思っていますか？

L) このプロジェクト期間には実現できなかったことで、今後取り組みたいと思っていることはどのようなことですか？

M) その他、本プロジェクトに関して、ご意見・ご感想をお聞かせください。

N)「組織力向上サポート助成」について、お聞きします

1. 応募はされましたか？
   ① 応募した
   ② 応募しなかった

2. 応募しなかった方にお聞きします。応募しなかった理由を教えてください。
   ① 応募期間が短く、団体内で検討・協議する時間がなかった
   ② 2013 年 7 月の合宿後、業務が忙しくなり、対応できなかった
   ③ 助成内容に関心がなかった
   ④ 必要な基盤強化は、独自資金で（もしくは資金はなくても）できると判断した
   ⑤ その他（　　）

以上、ご協力ありがとうございました。

※このアンケートの集計結果は本プロジェクトの検証作業のために使用し、統計的に処理いたします。
また、ここで知り得た情報等は、他の目的には一切使用いたしません。

【団体代表者の方に質問いたします】　メンバーが代表の場合は団体の事務局長など他の方がご回答ください。
※以下、該当する回答番号に○印をお付けください。

1. 記入される方の団体内での肩書きを教えてください。
□代表　□理事（代表以外）　□事務局長　□部門長　□職員　□その他（　　）

2. 実施の目的：現地事務局から参加の呼びかけ時、十分な説明はありましたでしょうか。
① 十分に説明を受けた
② 説明は受けたが十分ではなかった
③ 詳しい説明はなかった
④ 説明はなかった
⑤ 呼びかけ時には、同席していない

3. このプロジェクトにスタッフを参加させようと思ったのは、どのような理由からですか？具体的に教えてください。

4. 実施時期・内容についてお聞きします。
震災から 1 年というタイミングでこのような組織基盤強化プロジェクトを実施したことに対して、貴団体にとっていかがでしたか。
(ア) 混乱期でありスタッフを参加させるのは（組織として）かなり難しい判断だった
(イ) 1 年経ち、今後の組織体制、基盤について考えている時期だったので良いタイミングだった
(ウ) もっと早い段階で、このようなプロジェクトが必要だった
(エ) その他（　　）

5. メンターサポートプログラムについて
① このプログラムでは、メンバー（貴団体スタッフ）に対して、担当メンターがつき、メンバーに寄り添う形で課題解決を応援しました。このメンターサポートという方法について、ご意見をお聞かせください。（複数回答可）
(ア) メンバーの成長に役立った
(イ) メンバーのみならず、団体の他のスタッフに対しても有益だった
(ウ)「メンター」という役割そのものへの理解できなかった。
(エ) メンバーにとって、有益だったとは思えない
(オ) その他（　　）

② 上記を選んだ理由を教えてください。

③ また機会があれば、メンターサポートプログラムを利用したいと思いますか？

はい ・ いいえ

6. このプロジェクトにスタッフを派遣した時点で、貴団体で抱えていた課題は、
このプロジェクトにスタッフを送り出したことで、解決に近づきましたか？具体的に教えてください。

7. 貴団体のスタッフが本プロジェクトに参加したことによって、何か変化はありましたか？具体的に教えてください。

●メンバー自身にとって

●組織にとって

8. その他、このプロジェクトに関してご意見、ご感想などがあればお聞かせください。

以上、ご協力ありがとうございました。

11

市民活動団体育成・強化プロジェクトが再度実施されるとして、

2012 年 4 月の時点のあなたと同様の立場・境遇の人に、プロジェクトへの参加を勧めますか？

各プログラムに対して、10 段階評価をしてください（数字に○をしてください）。

実施していないものは記入していただかなくて結構です。

プログラム	まったく勧めない → 強く勧める
プロジェクト全体を総合的に判断して	1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
集合研修	1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
メンタープログラム	1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
実践応援プログラム　～基盤整備コース～	1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
実践応援プログラム　～インターンシップコース～	1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

「市民活動団体育成・強化プロジェクト」メンターアンケート（１）

日本NPOセンターが、「市民活動団体育成・強化プロジェクト」を再度実施することになり、あなたが前回のこのプロジェクトに関わっていたと知っている知り合いから相談を受けました。Ａさんは、参加メンバーとして応募しようか考えており、Ｂさんは日本NPOセンターからメンターになってほしいと言われています。あなたは、ＡさんとＢさんにこのプロジェクトへの参加を勧めますか？

注１：以下のスケールにしたがって、10段階評価で答えてください（数字に○をしてください）。
注２：Ａさんの個人や組織の状況は、このプロジェクトが対象としてねらっている層にあてはまっていると想定してください。
注３：Ｂさんは地域のNPO中間支援センターの中核スタッフで、地域や全国のNPOの状況には詳しいが、特にメンターとしてほかの人を指導する立場についたことはないと想定してください。
注４：以下の「しかるべき改善」のなかには、あなたが改善点と考える点が含まれていると想定してください。
注５：実際に「再度実施」の具体的計画はありません。

相手	プロジェクトの構成や運営方法	まったく勧めない ⟷ 強く勧める									
Ａさん（メンバー候補）	今回と同じ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Ａさん（メンバー候補）	しかるべき改善がなされている	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Ｂさん（メンター候補）	今回と同じ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Ｂさん（メンター候補）	しかるべき改善がなされている	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

「市民活動団体育成・強化プロジェクト」メンターアンケート（２）

今回、「市民活動団体育成・強化プロジェクト」にメンターとして関わったあなたの関わりを自己評価してみてください。以下のスケールにしたがって、10 段階評価で答えてください（数字に○をしてください）。

	評価が低い ← → 評価が高い									
メンターとしての量のコミットメント（割くことのできた時間）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
メンターとしての質のコミットメント（メンバーとのやりとり、ケア、フォロー、気づいたことの事務局への伝達等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
コメント（あれば）										

「市民活動団体育成・強化プロジェクト」メンターアンケート（３）

グループインタビュー第２部で話題にしたことをあらためてお聞きします。**あなたの立場や関わりから見て、以下の下線部分の言明はこのプロジェクトをどの程度正しく言い表していますか？**以下のスケールにしたがって、５段階評価で答えてください（数字に○をしてください）。

	まったく同意しない ⟷ 強く同意する
震災後１年のあいだに、被災地においてはNPOがどんどん新設され、震災前から存在していた団体も多くが活動を広げていった。また、それらのNPOが扱う資金規模も、被災地に流入する資金の大きさにあわせて肥大した。ところが、地域のNPOの力量を全体としてみた場合、組織のあり方や運営方法についてモデルとなりうる組織や、知識と経験を兼ね備えたリーダーはまだまだ少なかった。そんななかで、被災地から支援が離れていく３年後、５年後をにらんで、地域のなかのNPOの組織基盤を強化し、リーダーを育成することは、被災地の復興や発展を進めるうえで、急務であった。	1　2　3　4　5
コメント（グループインタビューで言っていないこと、言い足りていないことがあれば）	
上記の考えにもとづき、プロジェクトでは、集合研修からはじまり、メンターサポートのかたわら、基盤整備のための費用支援とインターンシップを組み入れるという複合的なプログラム構成を実施することによって、目的を達成することができた。もちろん、組織基盤強化やリーダー育成という目的は、中長期にわたって果たせるものだが、約1年半という期間で、最大限のことをなし得ることができた。	1　2　3　4　5
コメント（グループインタビューで言っていないこと、言い足りていないことがあれば）	

この報告書は、国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンと日本NPOセンターが行う
「市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト」の一環として作成しました。

本報告書について、感想・コメントをお寄せください。お問い合わせも歓迎です。
問い合わせ先： Eメール：feedback@jnpoc.ne.jp または FAX: 03-3510-0856

市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト事業検証報告書

発行日：2014年6月1日

発行：特定非営利活動法人日本NPOセンター
TEL. 03-3510-0855　FAX. 03-3510-0856　URL. http://www.jnpoc.ne.jp/

この報告書は、国際NGOワールド･ビジョン･ジャパンと日本NPOセンターが行う
「市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト」の一環として作成しました。